

令和元年度

男女共同参画に関する市民意識調査

結果報告書

令和元年9月

市民意識調査の概要

調査の目的

男女共同参画に関する市民の意識の変化や意向について把握し、「第3次きたひろしま男女共同参画プラン」の見直しなど、今後、市が取り組むべき施策の参考資料として活用します。

調査の方法と回収結果

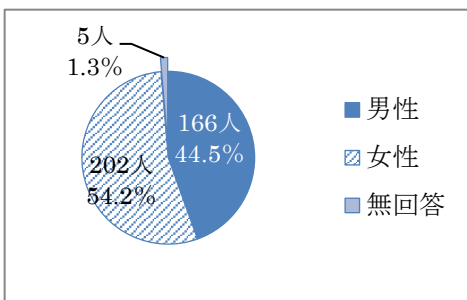
- (1) 調査対象: 18歳以上の市民1,000名(無作為抽出)
- (2) 調査期間: 令和元年7月3日(水)～令和元年7月31日(水)
- (3) 調査方法: 郵送による
- (4) 回答結果: 有効回収数(率) 373人 37.3%

報告書の見方

- (1) 回答率(各回答の百分率)は、回答総数を基数として算出し、小数第2位を四捨五入しました。このため、個々の比率の合計が100.0%にならない場合(99.9あるいは100.1)があります。
- (2) 複数回答(「2つまで」「3つまで」「いくつでも」など)を認めた質問では、回答者数を基数としているため、比率の合計が100%を超えることがあります。
- (3) 前回調査や国(内閣府)・北海道の調査に同様の設問がある場合、できるだけ他調査結果との比較を行いました。報告書の中でこれらの表記は以下のとおりとします。
 - 「今回」: 本調査(令和元年度)
 - 「前回」: 「男女平等参画に関する市民意識調査」(平成25年度)
 - 「北海道」: 「道民意識調査(男女平等参画について)」(平成27年度)
「道民意識調査(男女平等参画を阻害するあらゆる暴力の根絶について)」(平成30年度)
 - 「内閣府」: 「男女共同参画社会に関する世論調査」(平成28年度)

回答者の属性

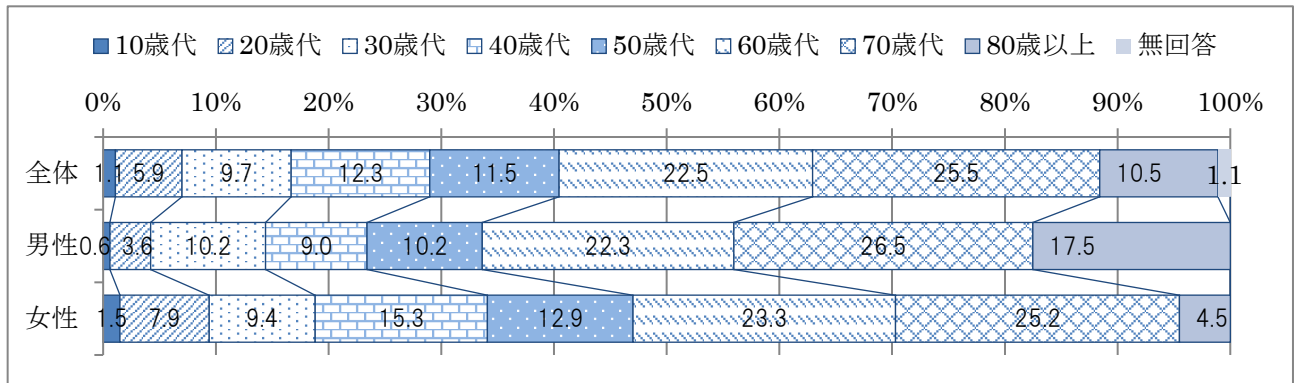
①男女別



男女別の回答率は、回答者に占める女性の割合が男性より9.7ポイント高く、北広島市の男女比と概ね同じになっています。

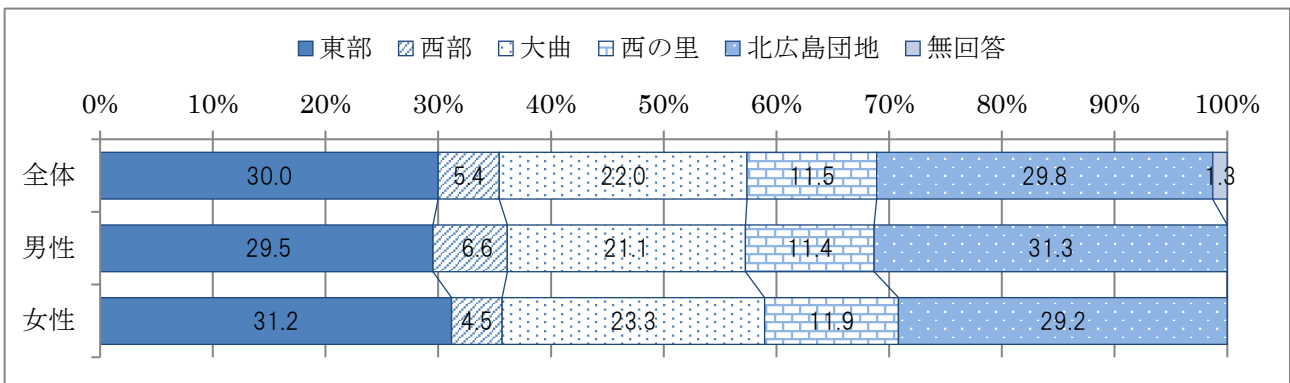
②年齢別

回答者の年齢層は、男女ともに60代から70代が多くなっています。



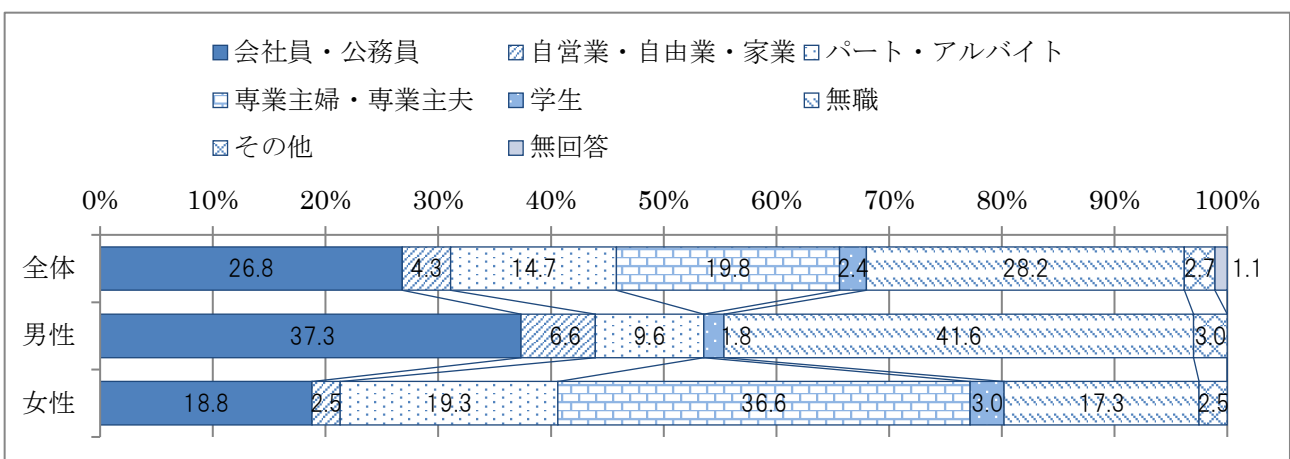
③地区別

回答者の地区別割合は、北広島市の人口地区別割合とほぼ同じとなっています。

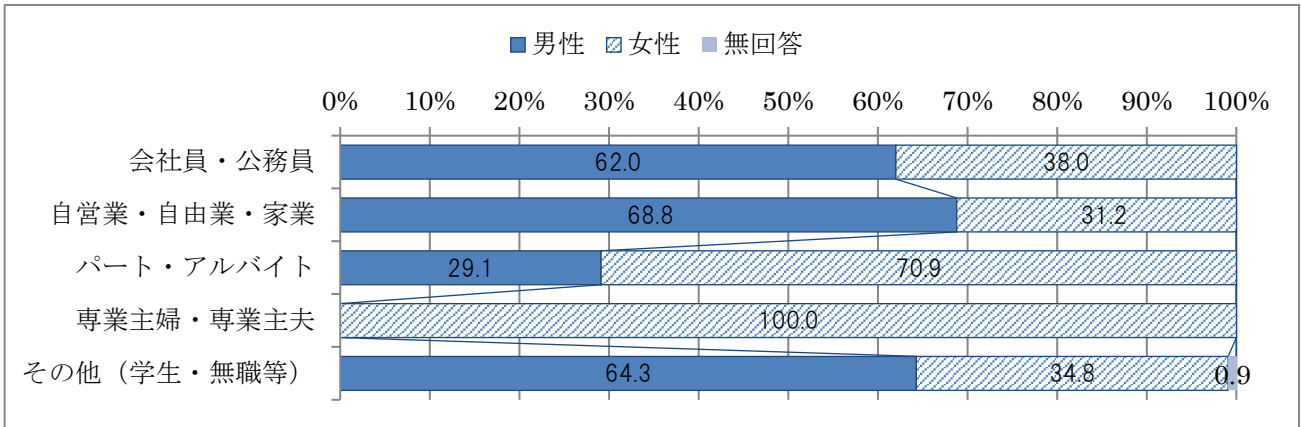


④職業別

職業別では、「無職」が一番多く、次いで「会社員・公務員」、「専業主婦・主夫」となっています。

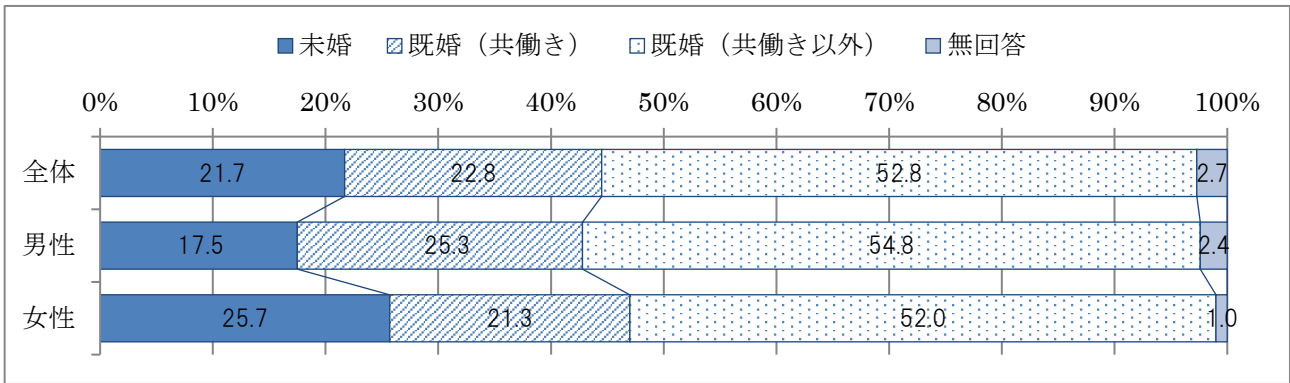


職業別の男女の割合



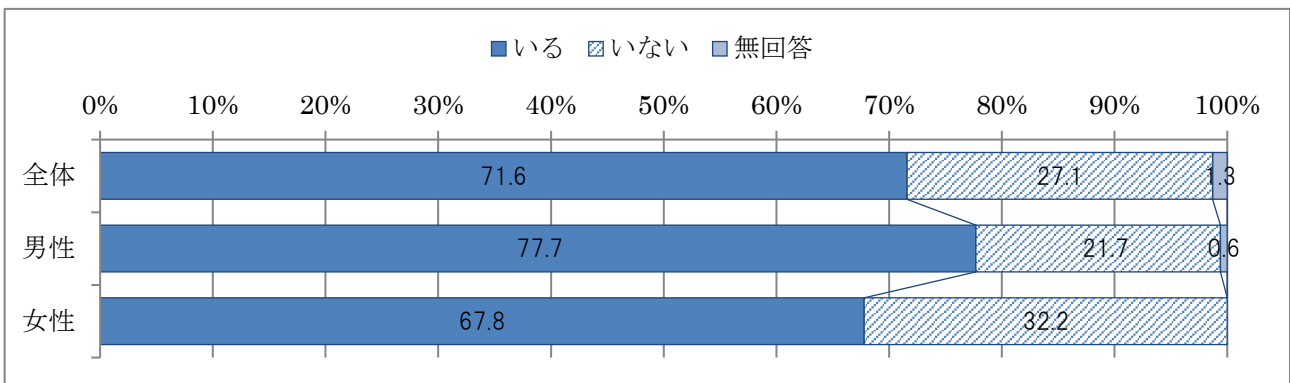
⑤未婚・既婚の別

75.6%が既婚者で、そのうち 52.8%は共働き以外と回答しています。



⑥子どもの有無

71.6%の方に子どもがいます。



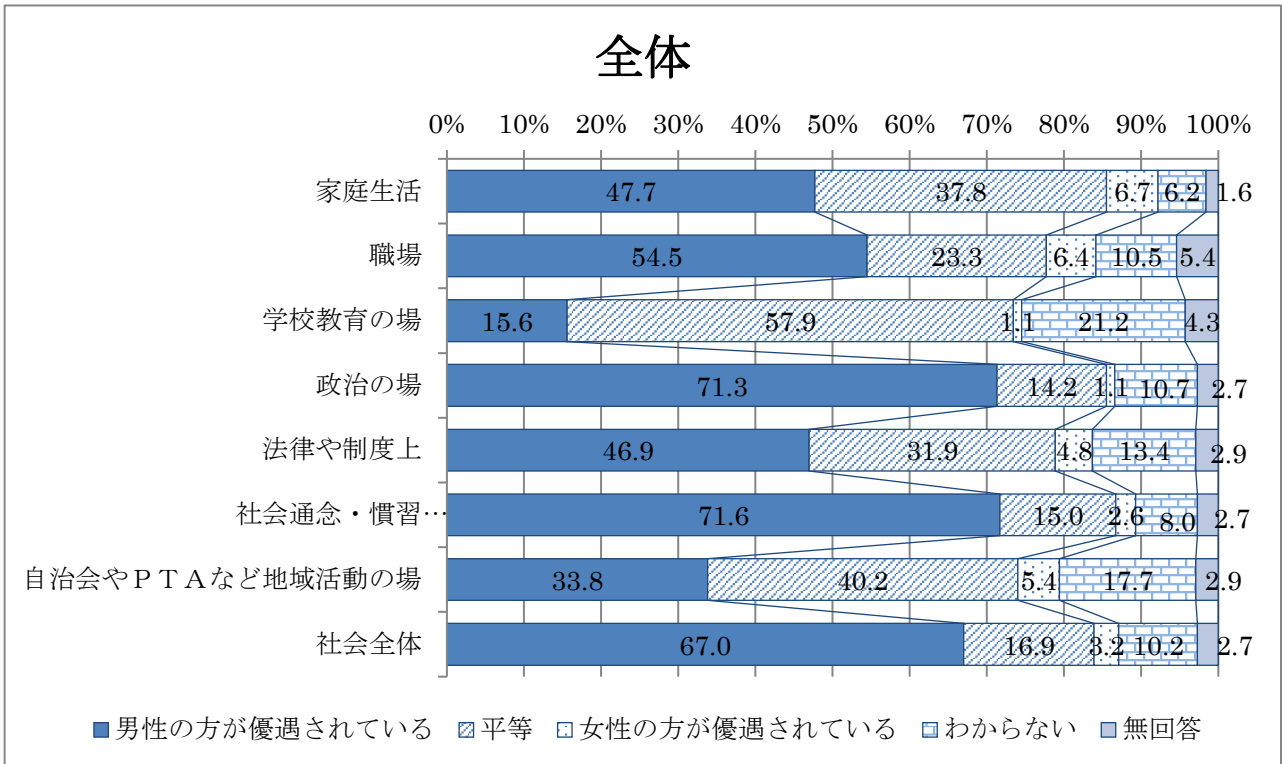
調査項目（全 15 問）

	北広島市(今回調査)	内閣府	北海道	北広島市 (前回調査)
1	男女共同参画社会に関する意識について	○	○	○
2	「男女共同参画」に関する用語の認知度について	○		○
3	「男は仕事、女は家庭」という考え方について	○	○	○
4	政治・行政に対する女性の意見の反映			○
5	女性が職業を持つことについて	○		○
6	女性が働きやすい状況にあるか			○
7	「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人生活」の関わり方	○		○
8	ワーク・ライフ・バランスが実現した社会であると思うか			
9	男性が、育児休業や介護休業を利用することについて			
10	男女がともに、家事、子育て、介護、地域活動に参加するために必要なこと	○	○	○
11	DV(配偶者等からの暴力)の認識		○	○
12	DV 相談窓口の認知度について			
13	セクシュアル・ハラスメントを受けた経験について			○
14	北広島市に求めること			○
15	男女共同参画のあり方についての意見・提案			○

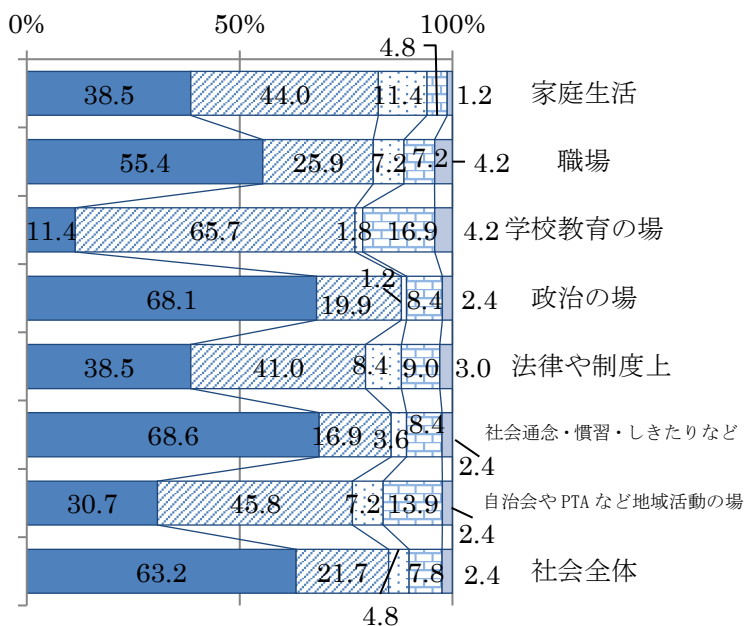
男女共同参画社会に関する意識について

男女の地位の平等意識

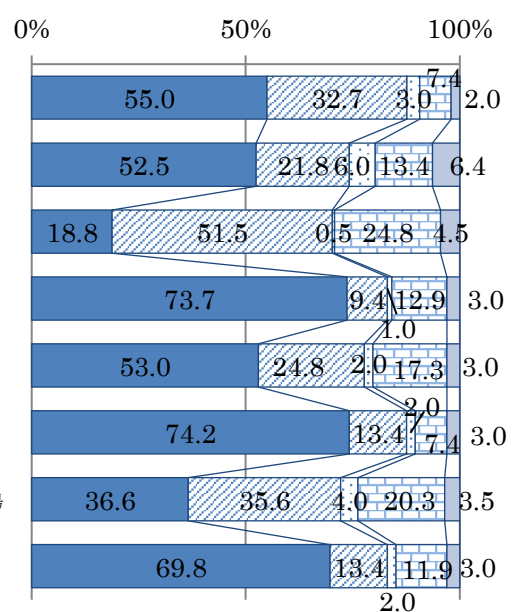
問1 あなたは、次にあげる各分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。あなたの気持ちに最も近い番号を選んでください。(それぞれの分野で○は1つ)



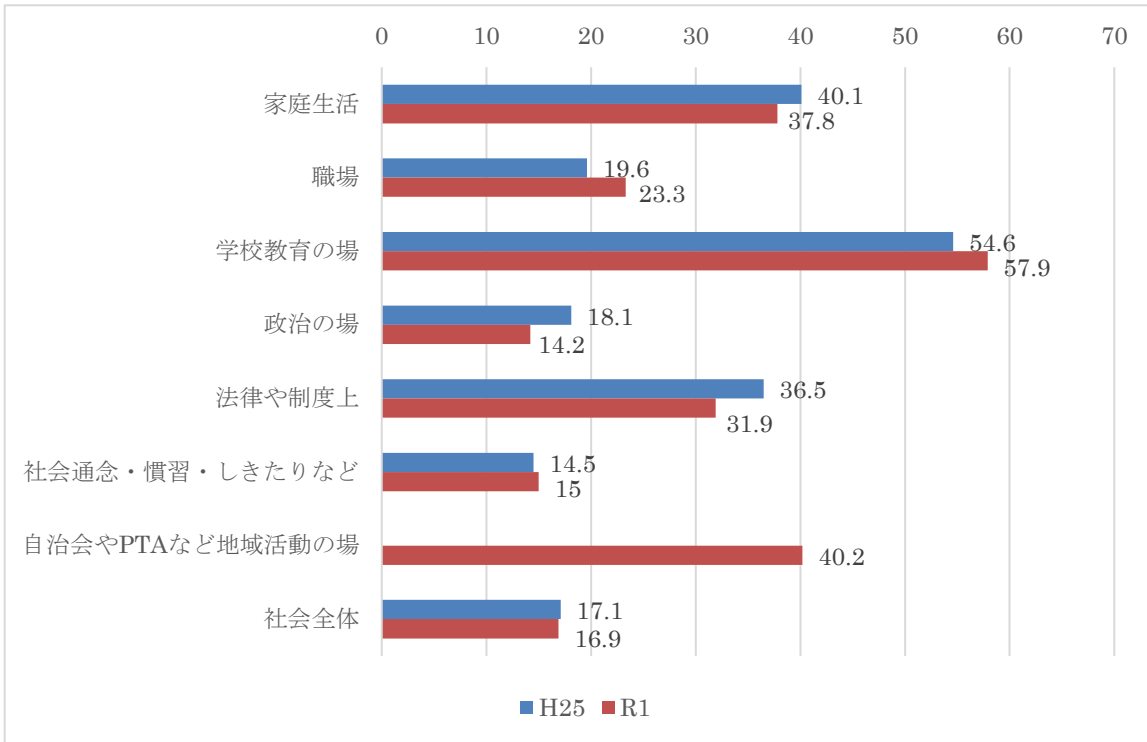
男性



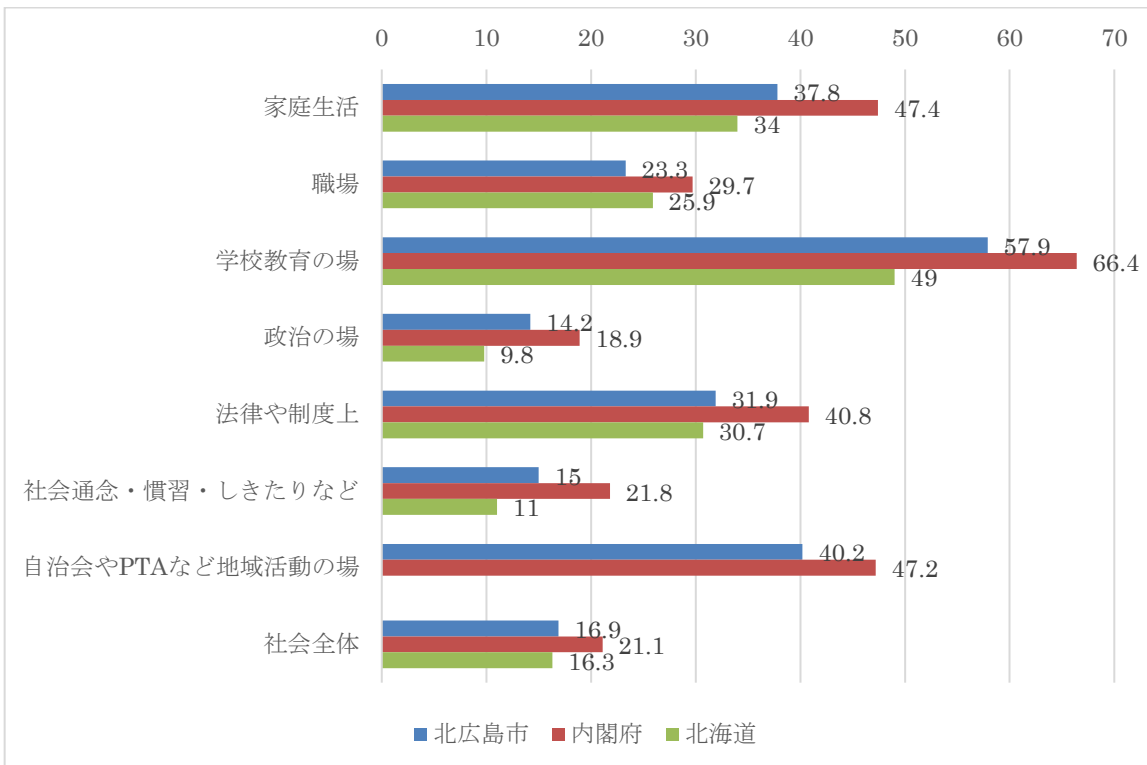
女性



◆「平等」と回答した人の割合（前回調査との比較）

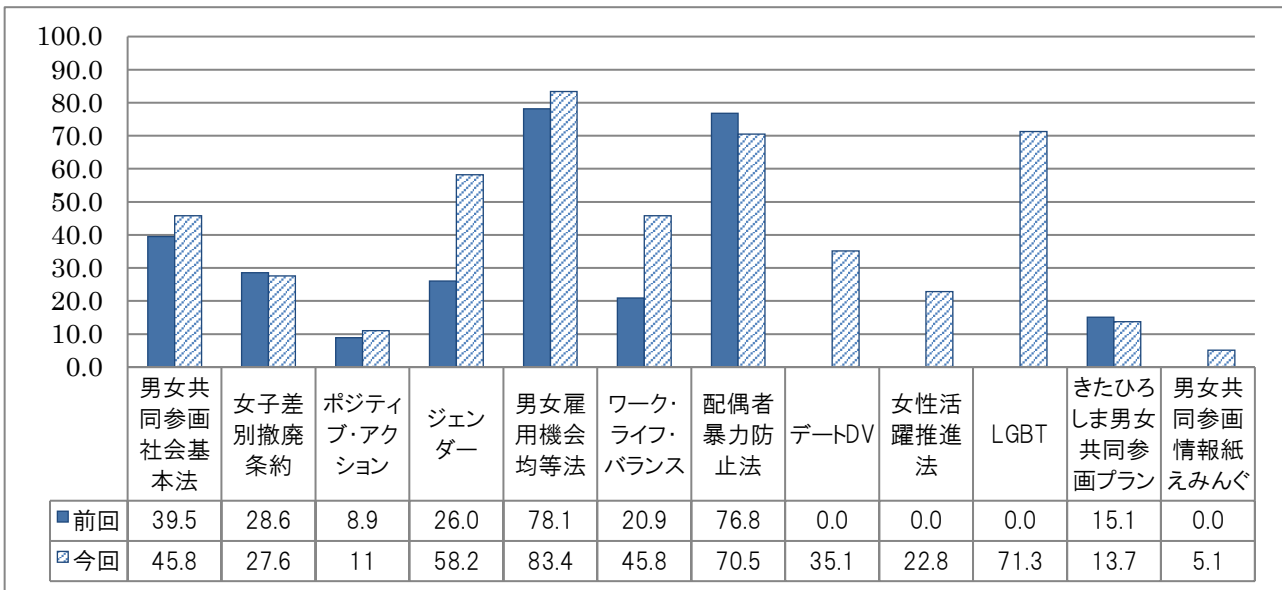


◆「平等」と回答した人の割合（国・北海道との比較）



「男女共同参画」に関する用語の認知度

問2 次にあげる言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものはどれですか。(該当するものすべてに○)

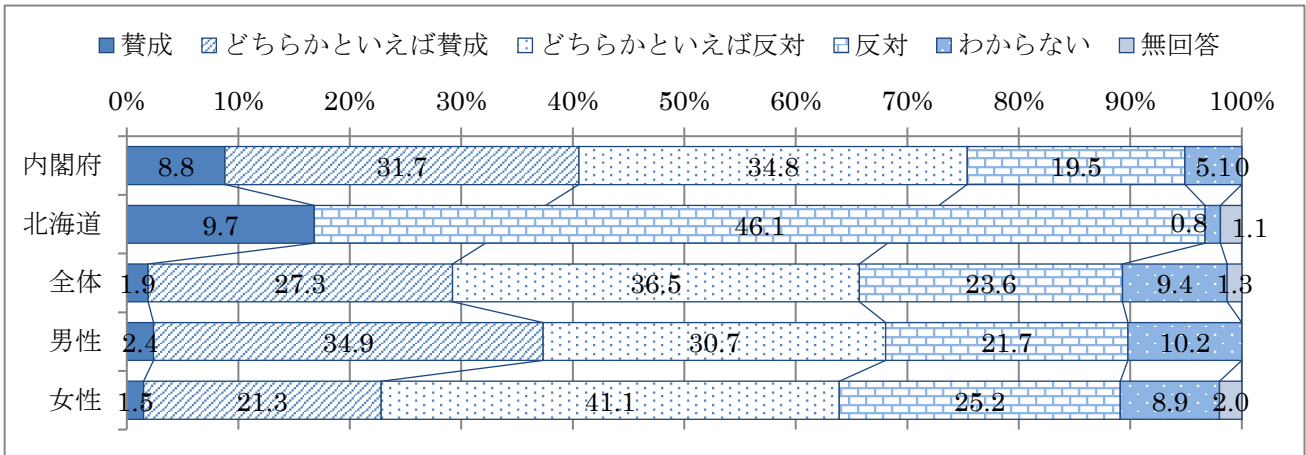


男女共同参画に関する用語のうち、見たり聞いたりしたことがあるものを聞いています。

「男女共同参画社会基本法」については前回(平成25年度)の39.5%に比べて45.8%、「男女雇用機会均等法」については、前回78.1%に比べて83.4%とやや認知が進んでいます。「ジェンダー」については、前回の26.0%に比べて58.2%と大幅に認知が進みました。

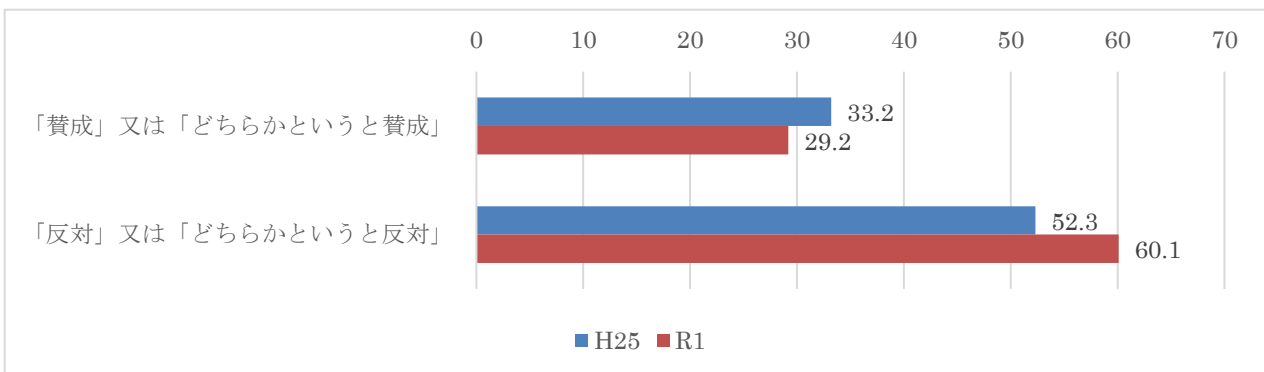
「男は仕事、女は家庭」という考え方について

問3 あなたは「男は仕事、女は家庭」という考え方をどう思いますか。(〇は1つ)



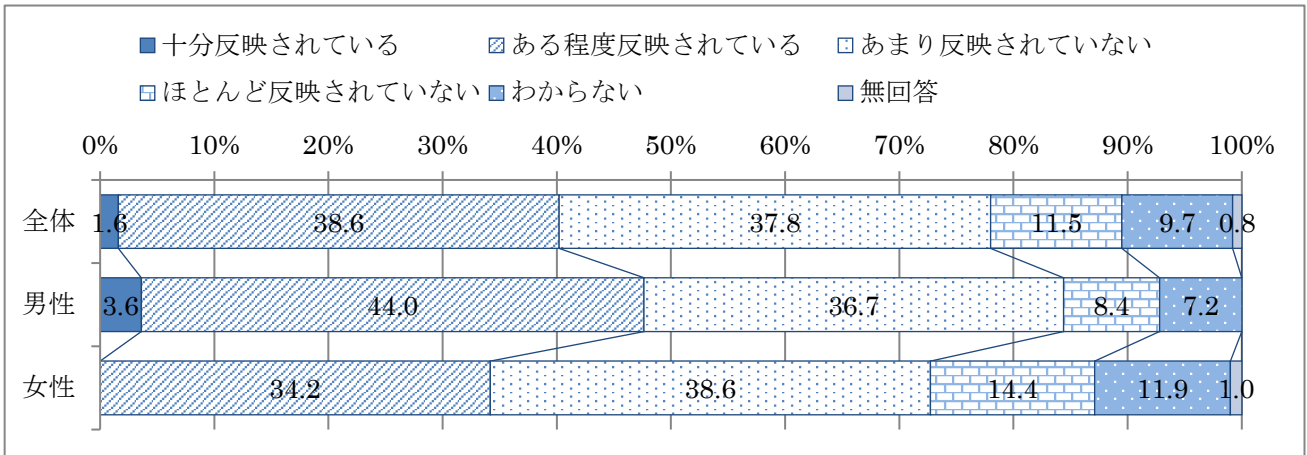
「賛成」、「どちらかといえば賛成」と回答した方の割合が29.2%(前回調査33.2%)となっており、「反対」、「どちらかといえば反対」と回答した方の割合が60.1%(前回調査52.3%)と、前回に比べて反対派がやや増えています。

◆前回調査との比較



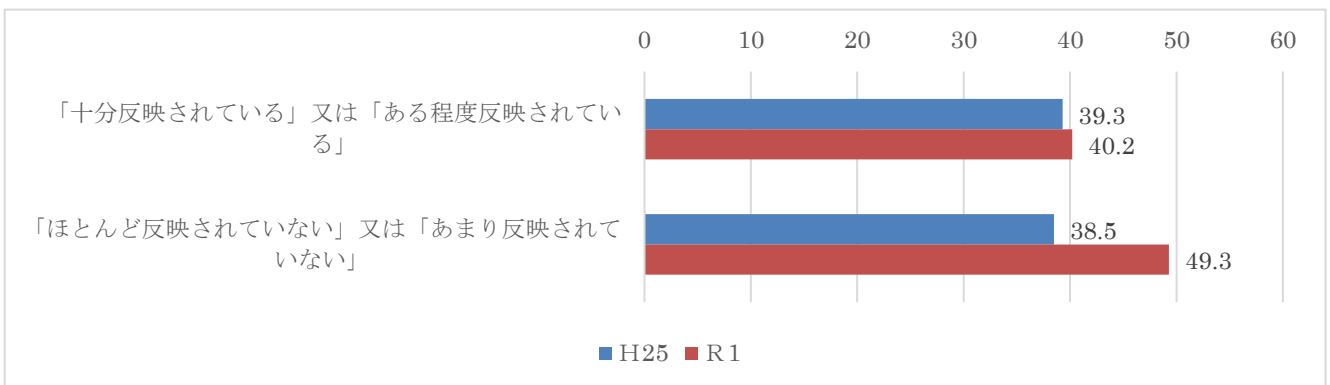
政治・行政に対する女性の意見の反映

問4 あなたは、現在、女性の意見が政治や行政にどの程度反映されていると思いますか。(〇は1つ)



「ある程度反映されている」と回答した方の割合が38.6%で最も多くなっていますが、男女別にみると女性は、「あまり反映されていない」と回答した方の割合が38.6%と最も多くなっています。

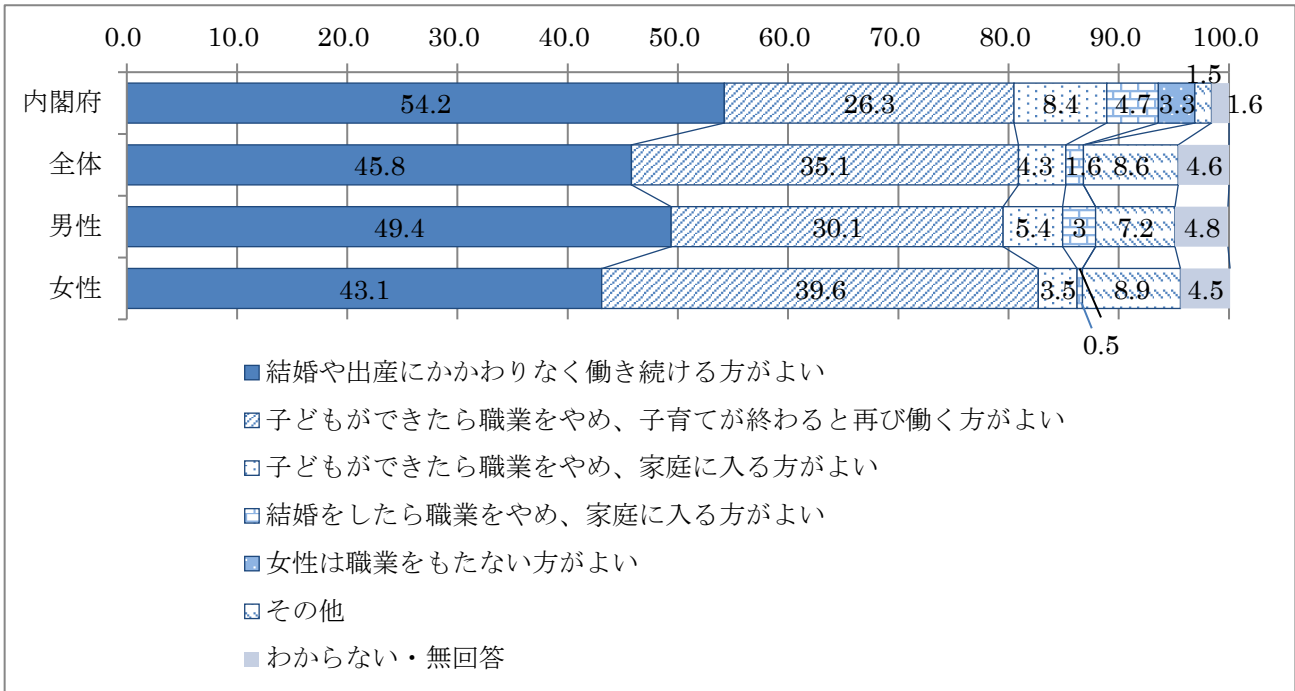
◆前回調査との比較



職業について

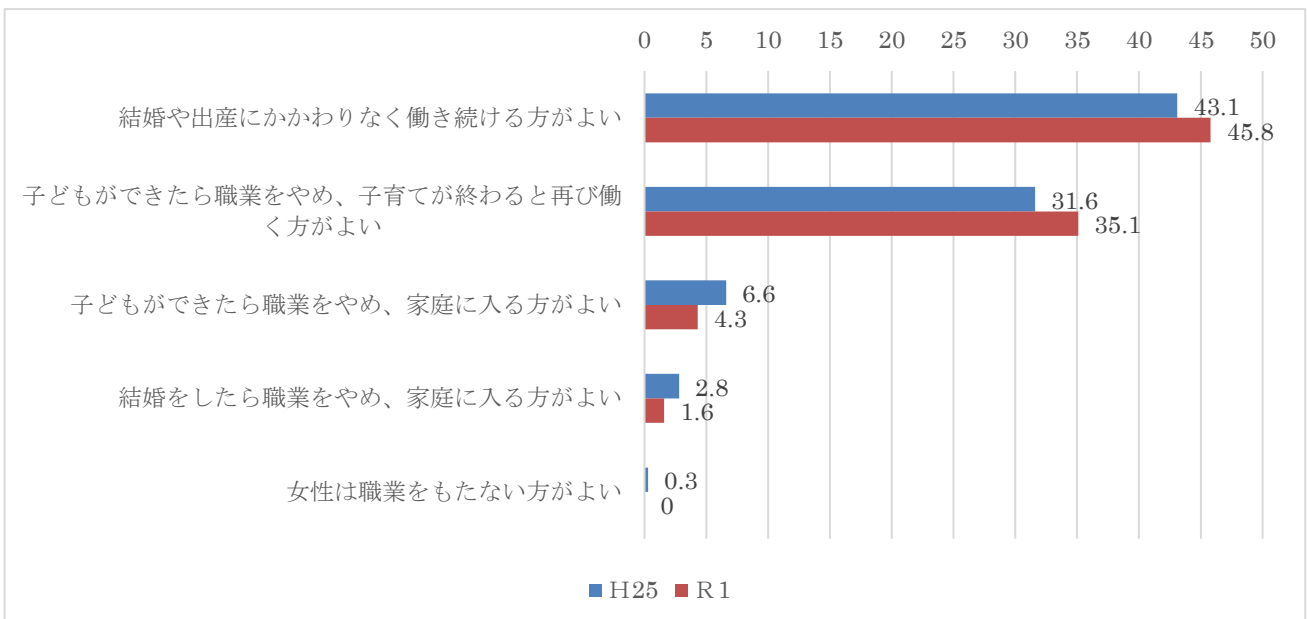
女性が職業をもつことについて

問5 あなたは、女性が職業をもつことについて、どう思いますか。(○は1つ)

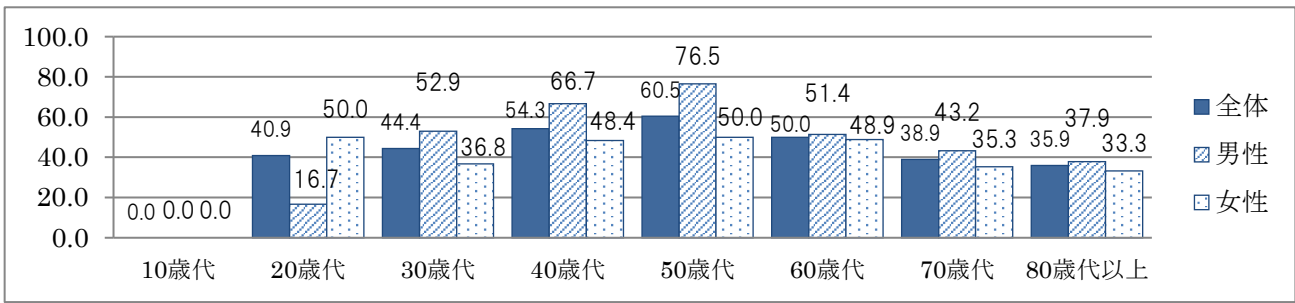


「結婚や出産にかかわらず働き続ける方がよい」と回答した方の割合が45.8%(前回調査43.1%)と最も高くなっており、次に、「子どもができたなら職業をやめ、子育てが終わると再び働く方がよい」と回答した方の割合が35.1%(前回調査31.6%)となっています。

◆前回調査との比較



年齢別「結婚や出産にかかわらず働き続ける方がよい」と思う人の割合



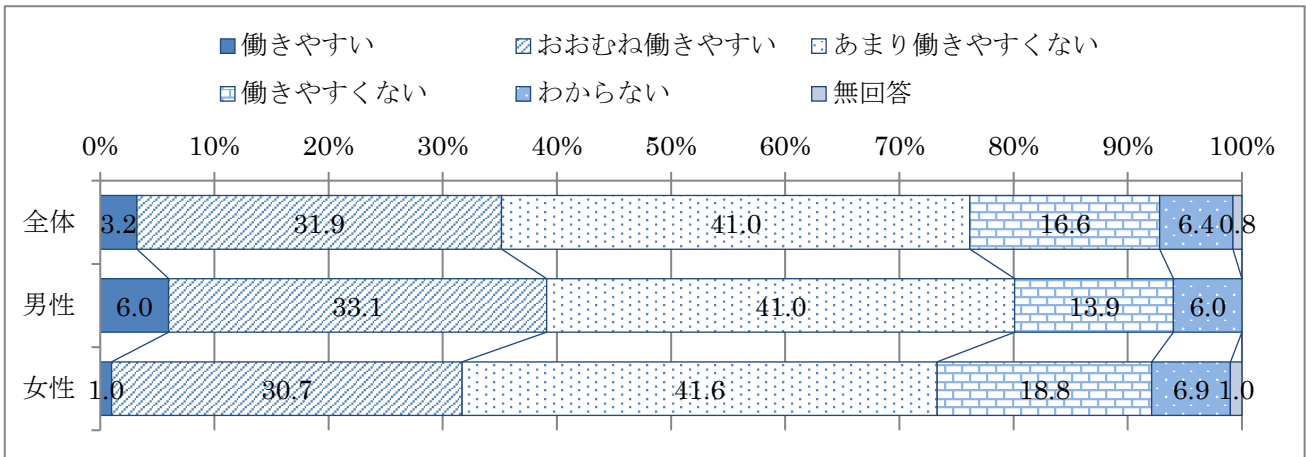
その他欄記載事項

- 個人の自由(20代女性)
- フルタイムではなく短時間で、もしくは早くあがれることができる仕事。子持ちの場合。(20代女性)
- 教育費等育児にかかる経済的負担を補う(40代女性)
- 結婚、出産に関わらず、自分が働きたいと思った時にすんなりと働きたい。(無回答)
- 家庭の経済状況、他を考え、夫婦で話し合っ決めればよいと思う。(60代女性)
- 回答が決めつけられるようなものだけでおかしいと思う。職業を持つことは良いと思うが、基本的にそのあとは自由だと思うので、それはその他しかないのか。(50代女性)
- どちらでもよい(無回答)
- 個人の選択(70代男性)
- 本人次第(80代男性)
- 個々の意思による。私は周囲の理解、協力もあり働き続けられました。(60代女性)
- 自己の意志で選択可能な社会(70代男性)
- 本人が考えるべき(60代女性)
- 時と場合による。自分のやりたいことをやればよい。(10代女性)
- 子育てしながら働ける制度や風土が必要。(40代女性)
- 子供ができたら職業をやめ、金銭的余裕がなければ働く方がよい。(20代男性)
- 自由、本人意志(40代男性)
- その人の考えでいいと思います。(30代男性)
- 家庭の事情によって違う。(60代男性)
- やはり経済状況によると思う。(40代女性)
- 男女関係なく、本人が決めればよい。(30代男性)
- それぞれ希望するとおりになればよい。一人一人が違うと思う。(30代女性)
- 働きたかったら働けばいいと思う。(30代女性)
- それぞれの家庭が考えるべき。(50代男性)
- 個々の家庭、価値観によっても、家庭の経済状況によっても変わってくるので、それぞれの考え方で良いと思うから。ただ、受け入れる側(政治、行政)の環境づくりが大事。(60代女性)
- 個々の状況により一概ではないが、働き方などの選択肢が多肢ある方がよい。(30代男性)
- 本人の意思が反映されることが大切。(30代男性)
- 女性の性格や適性による。また、家庭環境(男性の家事、育児などの意識)にもよる。(30代女性)
- 各人の環境や考え方による。どちらが正解でもない。(50代女性)
- 女性一人ひとりも考え方が違うので、個々の希望に合った生活ができればよい。(30代女性)
- 「女性が」ではなく、「個人が」何を望むかが重要。仕事をしたい人、家族を大事にしたい人、それぞれあるものを「女性」で一括にしようとするのが、まずもっての障害だと思います。(30代男性)
- その人の自由、好きにしたらいいと思う。(20代男性)

■ 各家庭の事情に合わせて考え方があと思う。(30代女性)

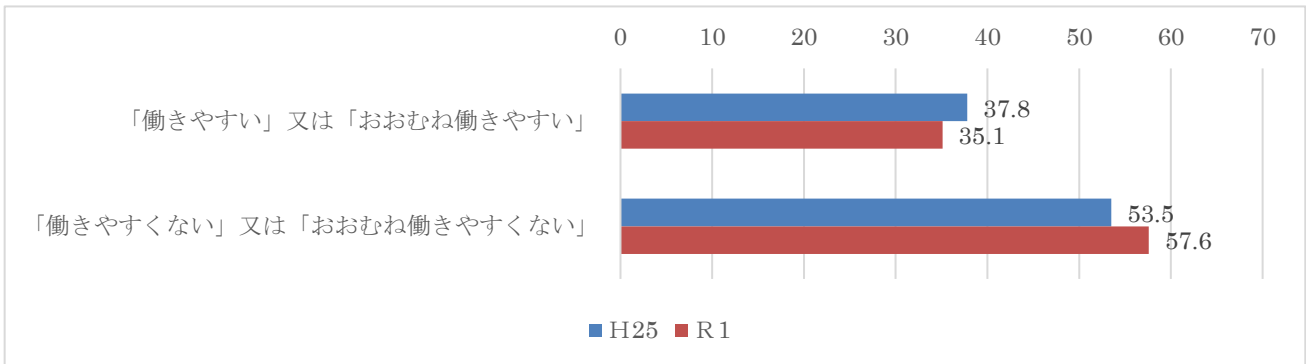
女性が働きやすい社会

問6 あなたは、今の社会は女性が働きやすい状況にあると思いますか。(〇は1つ)



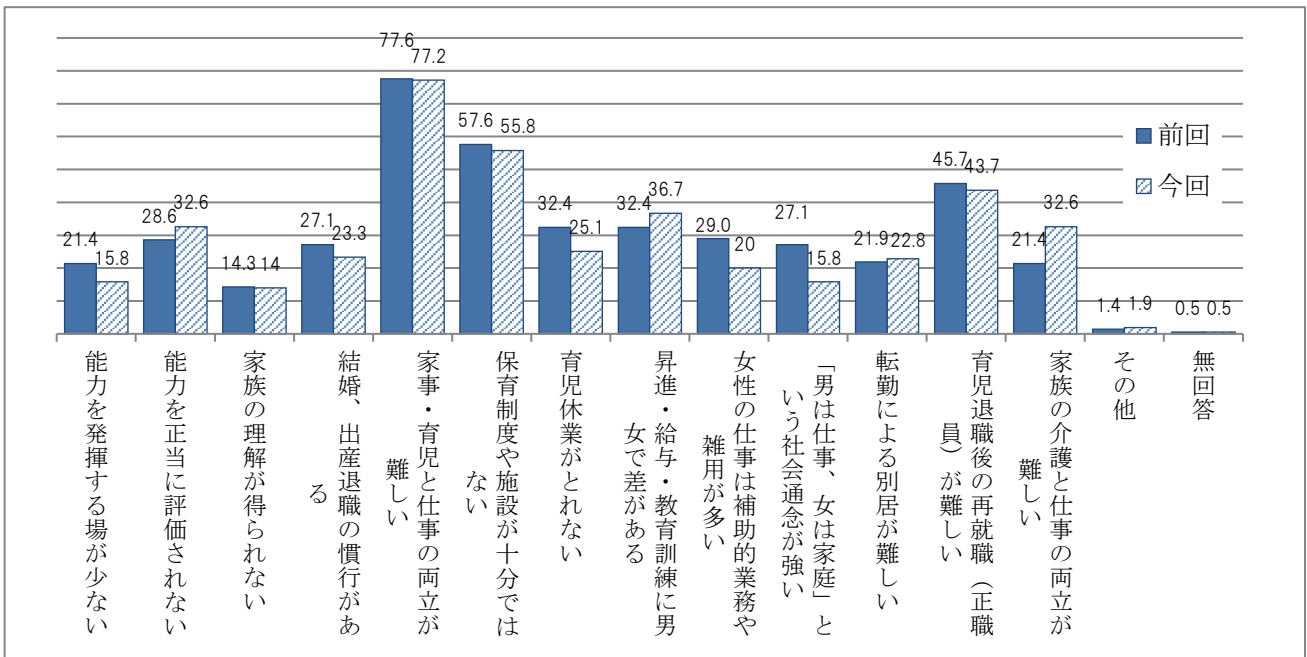
「働きやすすくない」「あまり働きやすすくない」と回答した人の割合を合わせると、57.6%と半数を超えています。

◆前回調査との比較



働きやすい理由

問 6-1 女性が「働きやすい」大きな原因と思うものを選んでください。(〇は5つまで)



問 6 で「あまり働きやすい」「働きやすい」と回答した人 57.6%(215 人)の中で、働きやすい大きな原因は「家事・育児と仕事の両立が難しい」ためと回答した人が 77.2%と最も多く、次いで「保育制度や施設が十分ではない」と回答した人が 55.8%と、以上 2 つの項目で半数以上の人が回答をしています。

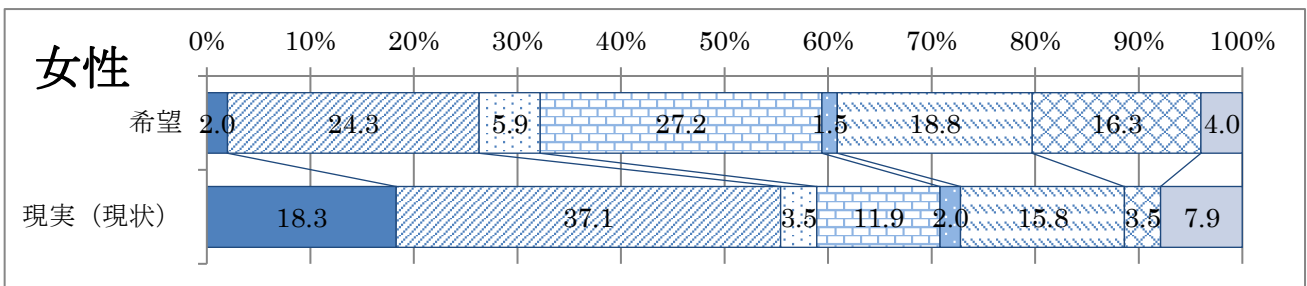
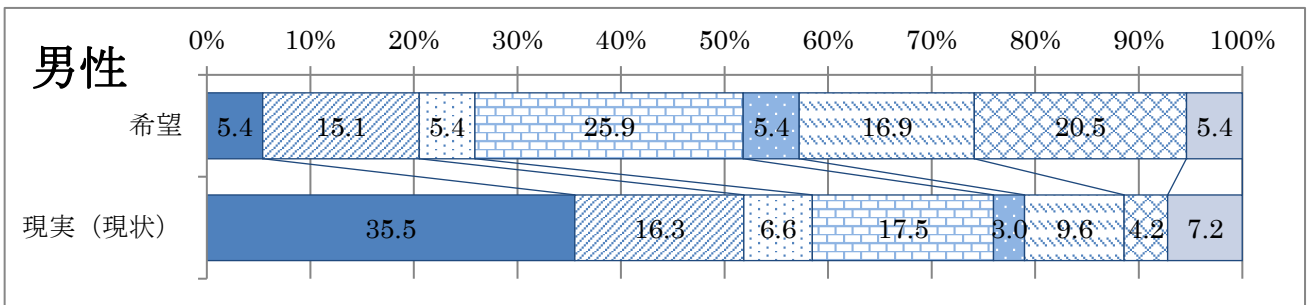
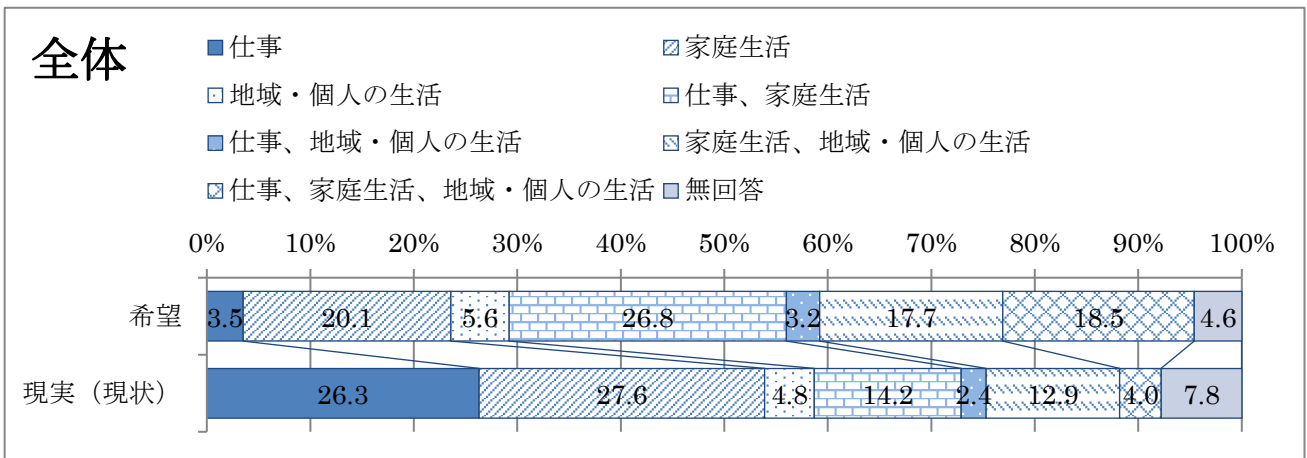
前回調査と比較すると、「能力を正當に評価されない」「昇進・給与・教育訓練に男女で差がある」「家族の介護と仕事の両立が難しい」が回答率を上げ、「能力を發揮する場が少ない」「育児休業が取れない」「女性の仕事は補助的業務や雑用が多い」「『男は仕事、女は家庭』という社会通念が強い」の回答率が下がっており、これらの分野については状況が改善されていることがわかります。

その他欄記載事項

- たくさん働きたくても 103 万円とか 130 万円とかの壁がある。働ける人はいくら働いてもいいと思う。(50 代女性)
- 女性自身の自己主張が影響している(70 代男性)
- 結婚してないしわからない。(10 代女性)
- 女性全般の知識、能力不足(60 代男性)

「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の関わり方

問7 生活の中で、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」(地域活動・学習・趣味・付き合い等)の優先度について、あなたの「希望」と「現実(現状)」に最も近いものを選んでください。(それぞれ〇は1つ)



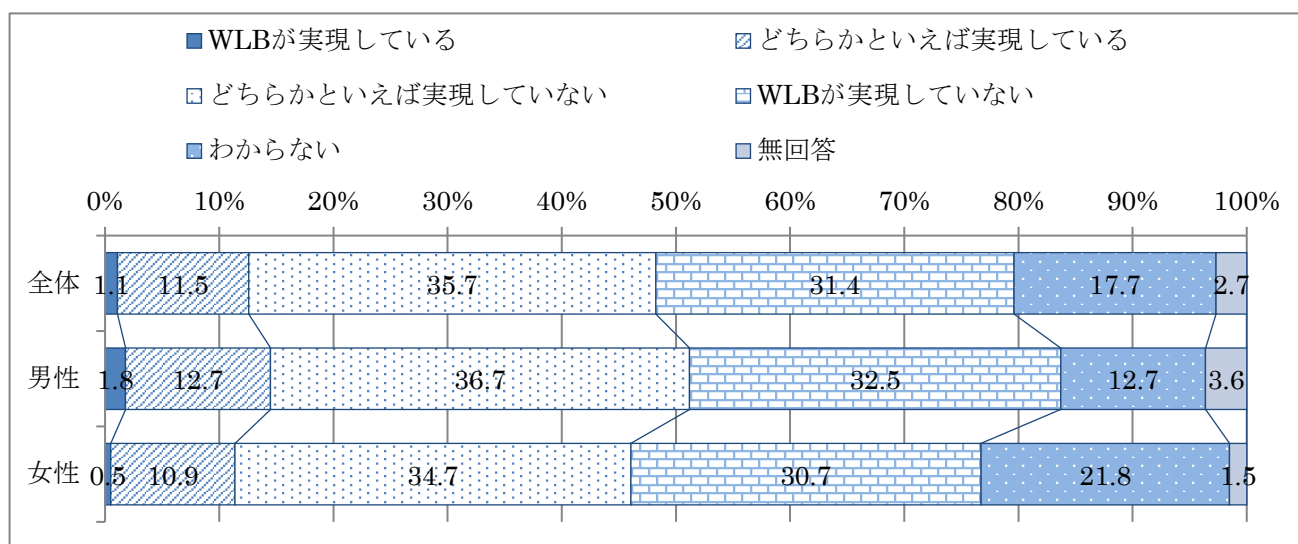
「希望」としては、「仕事と家庭生活を優先したい」と回答した割合が26.8%と最も高く、次いで、「家庭生活を優先したい」と回答した人が20.1%となっている。

しかし現実(現状)は「家庭生活を優先している」と回答した人の割合が27.6%と最も高く、次いで「仕事を優先している」と回答した人の割合が26.3%となっている。

ワーク・ライフ・バランスの実現

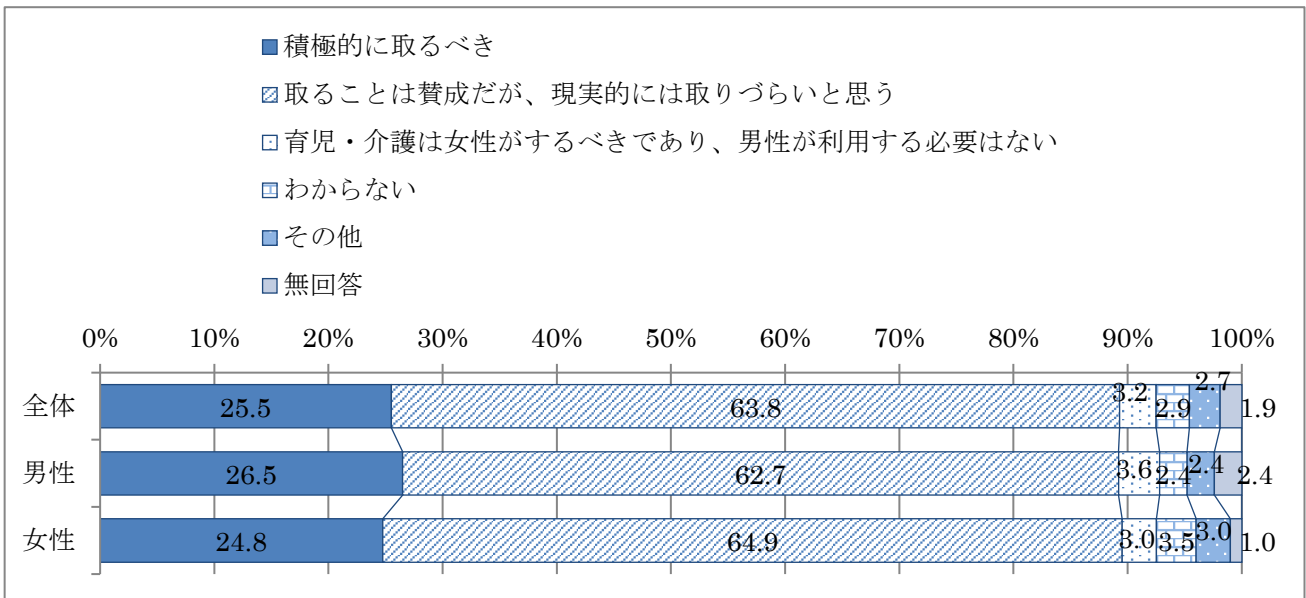
問8 あなたは、今の社会はワーク・ライフ・バランス(働く人が育児や介護、趣味、重要といった仕事以外の生活と仕事との調和をとり、その両方を充実させる働き方・生き方)が実現した社会であると思いますか。(〇は1つ)

「ワーク・ライフ・バランスがどちらかといえば実現していない」と回答した人の割合が35.7%と最も高く、次いで「ワーク・ライフ・バランスが実現していない」と回答した人の割合が31.4%となっている。



男性が育児休業や介護休業を利用することについて

問9 あなたは、男性が、法律に基づく育児休業や介護休業を利用することについてどう思いますか。(〇は1つ)



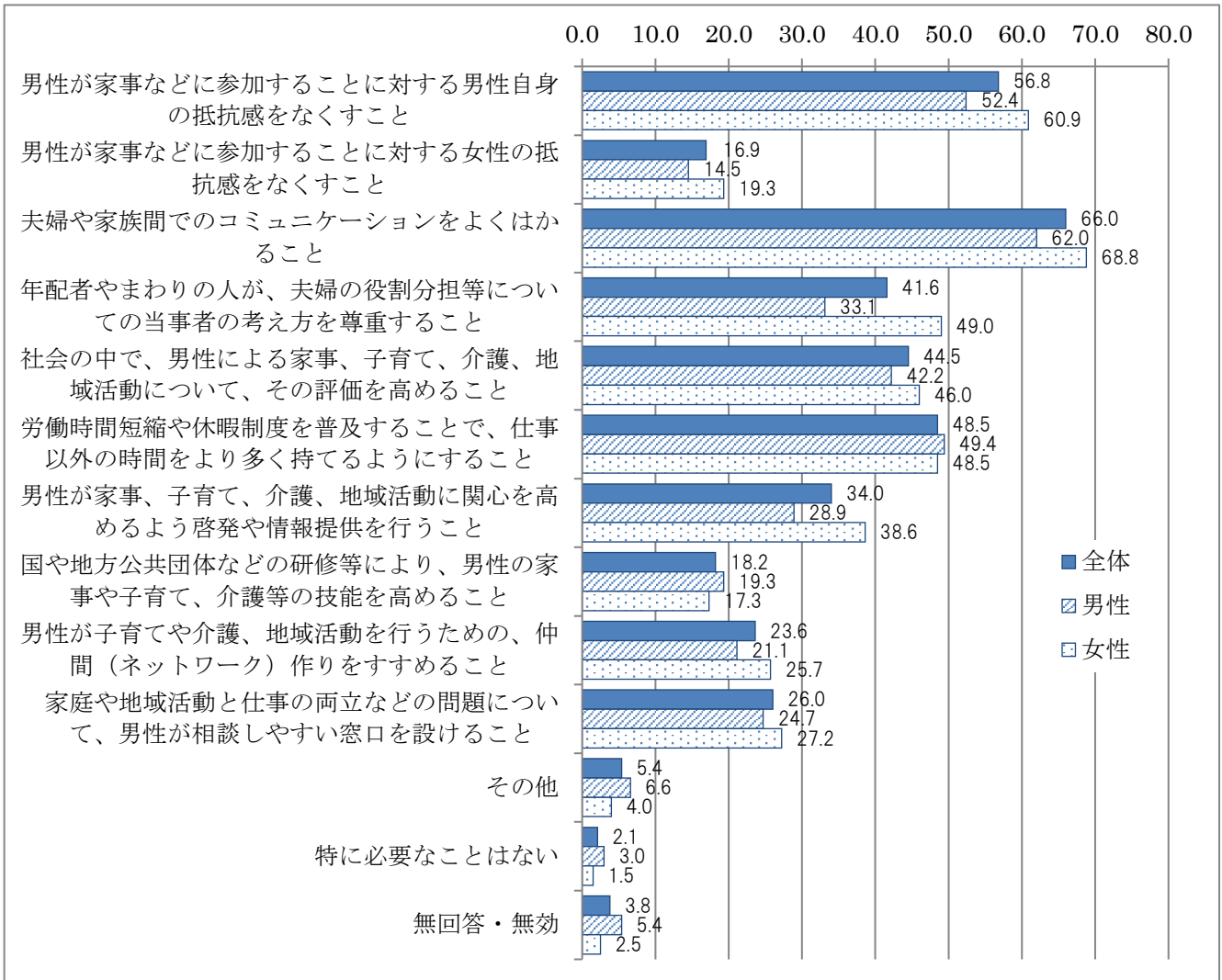
「取ることは賛成だが、現実的には取りづらいと思う」と回答した人の割合が63.8%と最も高くなっている。

その他欄記載事項

- 休業中にすべきことを実行するのであれば取るべき。遊んだり休業本来の目的に反する行動をするなら必要ない(20代女性)
- 男性が育児休業をとっても、それだけ専念できるか問題点と思う。(60代女性)
- 取る必要がどうしても必要な人(男性)は取ればよい。むやみに(安易に)取るのは反対。(70代男性)
- 家庭の事情により違う。(60代男性)
- 利用すべき状況であれば利用すればいいと思う。(30代男性)
- 育児は母親すべきで、しっかり子供をしつけて育ててほしい。介護は男女で行うのが良いと思います。(50代女性)
- 男性と女性で出来ることを協力して行うのが良い。(70代女性)
- 「積極的に取るべき」と決めつける必要はないが、休業制度の利用を希望する場合にしやすい環境を作る必要がある。(30代男性)
- 各家庭の事情による。男性、女性に関係なく、取りづらい会社が多いように思う。(50代女性)

男女がともに、家事、子育て、介護、地域活動に参加するために必要なこと

問 10 男女がともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにどのようなことが必要だと思いますか。(該当するものすべてに○)



その他欄記載事項

- 学校等で男女平等、男性の育児、家庭に対して抵抗をなくすこと。(30代女性)
- 男性の単身赴任(子供のいる家庭)はやめること。(70代男性)
- 現場の理解が必要。(70代女性)
- まずやりたいか。やりたい人がやるのがよい。(無回答)
- 保育所や学童保育の場を増やす。保育士、介護士の給料の向上。(30代男性)
- 雇用主サイドが変わるのが一番。個人の意識に依存する限り進展しない。(70代男性)
- 勤務先の理解が不可欠。(60代男性)
- 生活が安定していること。個々を認め合うこと。(60代女性)
- 職場理解。(30代女性)
- 男性がむやみに子育てを家事という風潮には違和感を覚える(反対)。(70代男性)
- わからない。(10代女性)

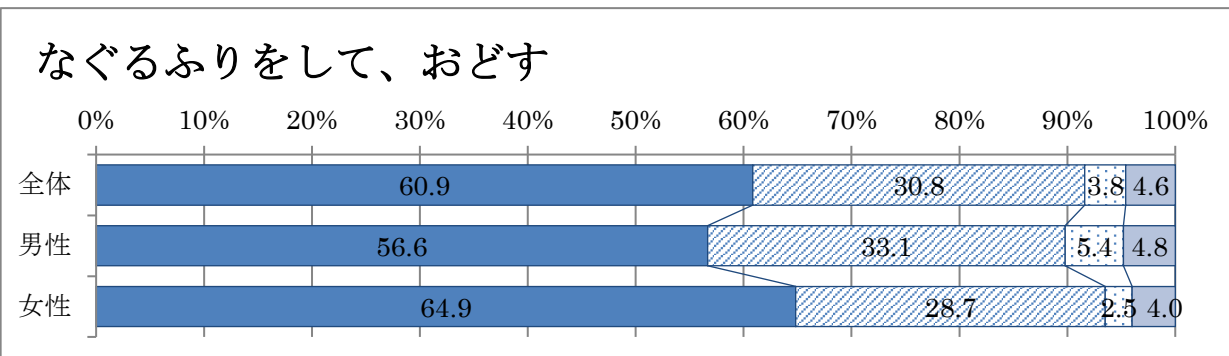
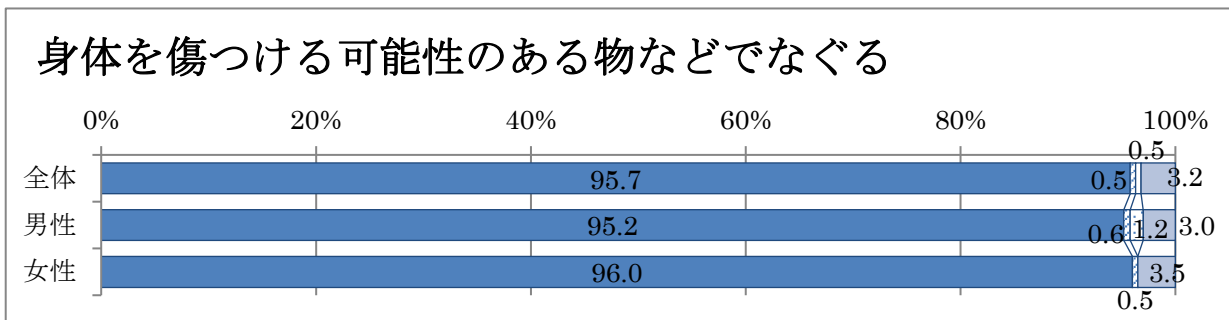
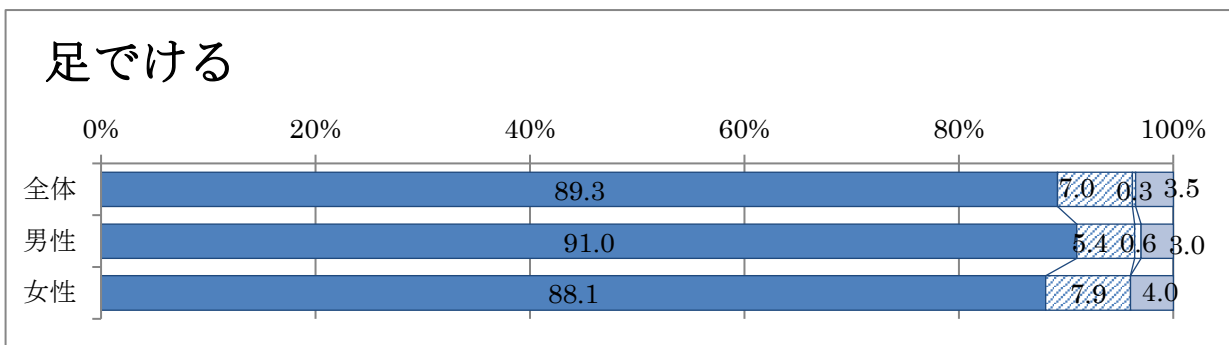
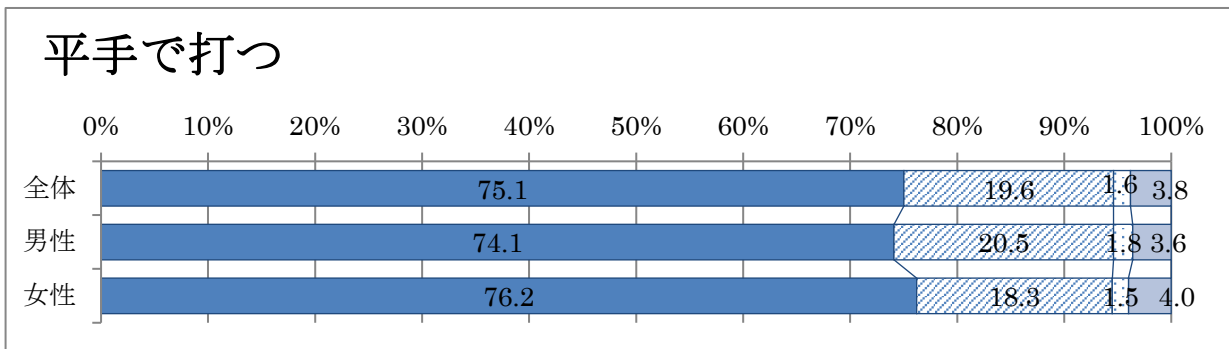
- 職場内の規制緩和の徹底。(20代男性)
- わからない。(70代女性)
- 積極的に参加するかどうかは、本人次第のはず。男女が共にという質問に対して選択肢のほとんどが、男性が参加していない前提なのはなぜ？(30代男性)
- 健康のことについての相談窓口。(80代男性)
- 給料のベースアップ。(30代女性)
- 子どものころから、男女に関わらず、当たり前にする事として、家庭、社会で教育していくこと。「これからは男の子もやるべき」→潜在的に「本来は男がやらないもの」と思い込ませないように、「男だから」や「男でも」といった性差の枕詞を使わない。(30代男性)
- 本人の意思。(50代男性)
- 国や地方公共団体が、家庭に対して補助金等を出すこと。(40代男性)

人権に関する意識について

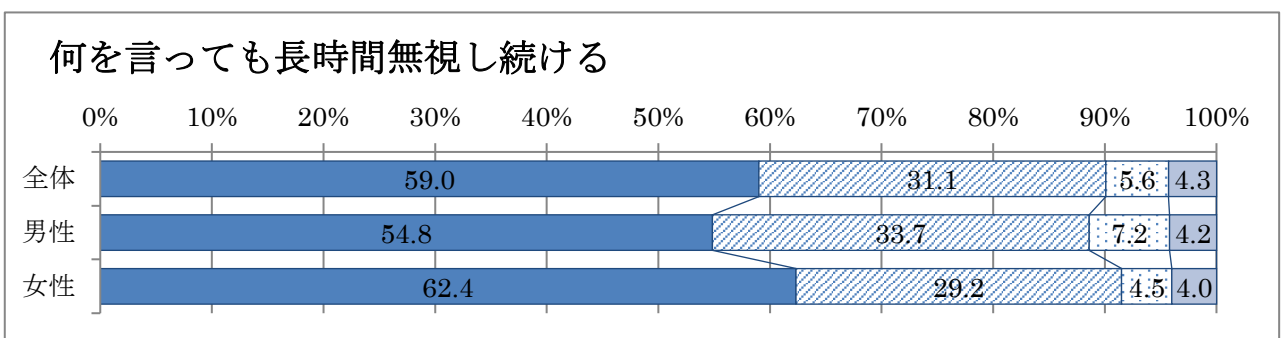
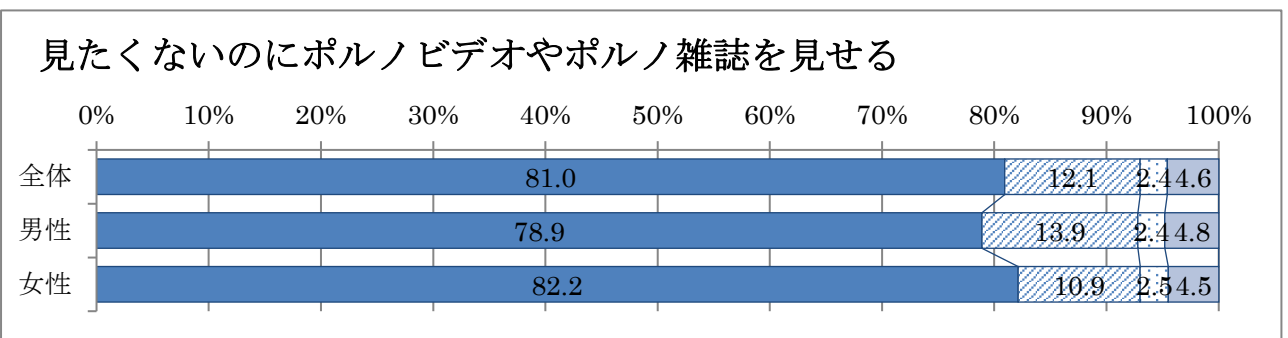
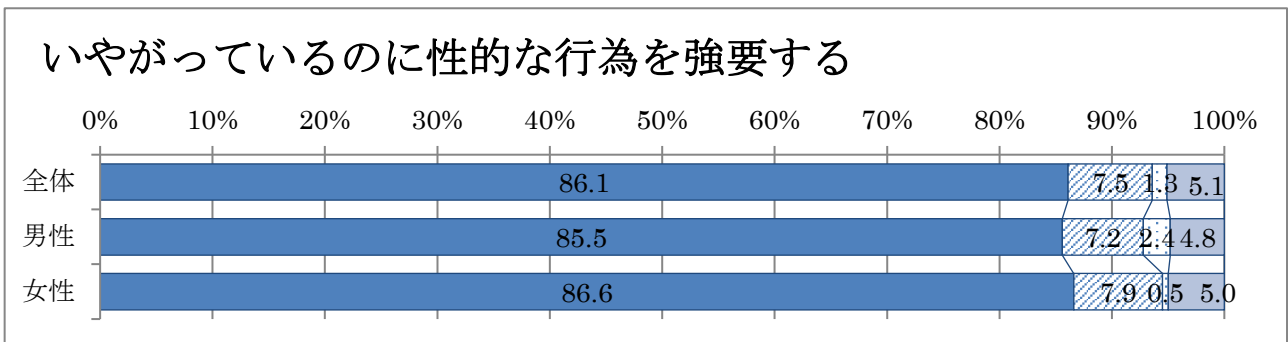
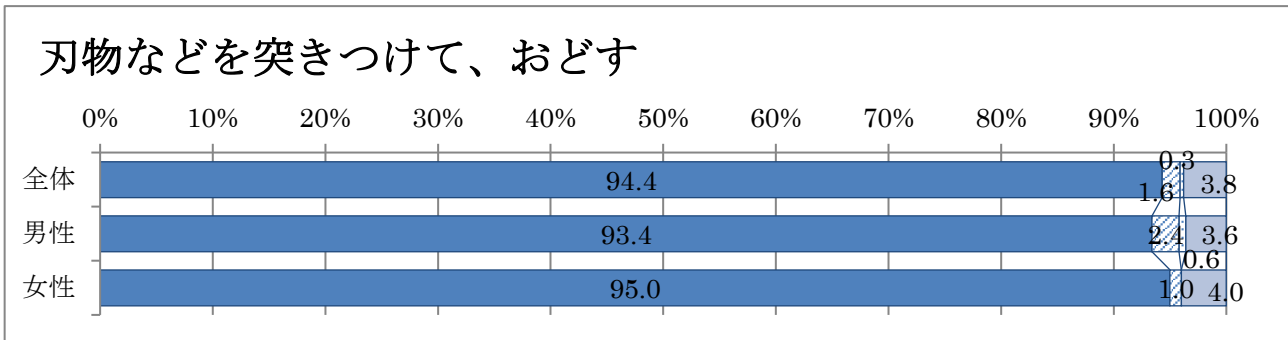
DV（配偶者等からの暴力）の認識

問11 DV(ドメスティック・バイオレンス)とは、配偶者や交際相手の中で起こる暴力のことをいいます。あなたは、次の行為が暴力にあたると思いますか。(それぞれの項目で○は1つ)

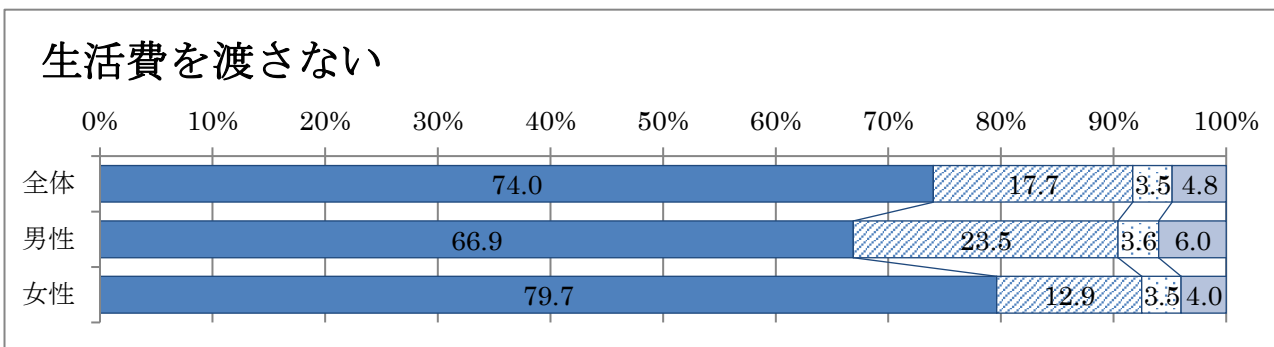
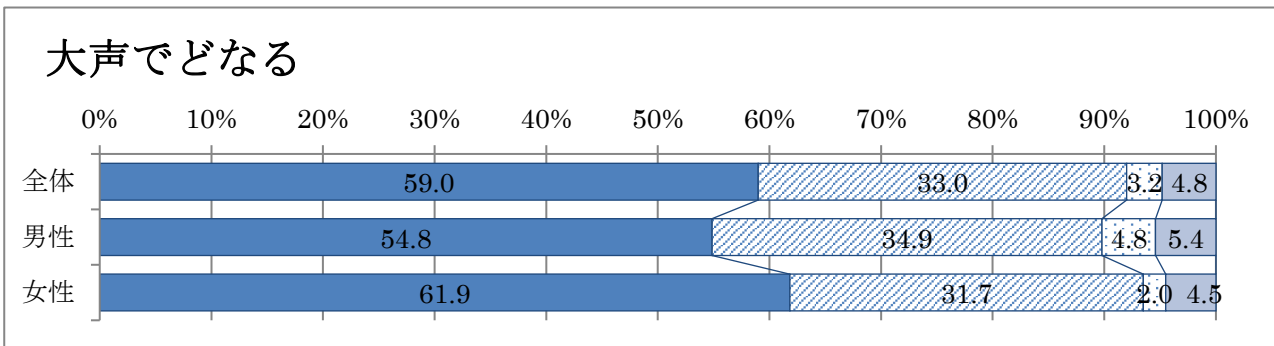
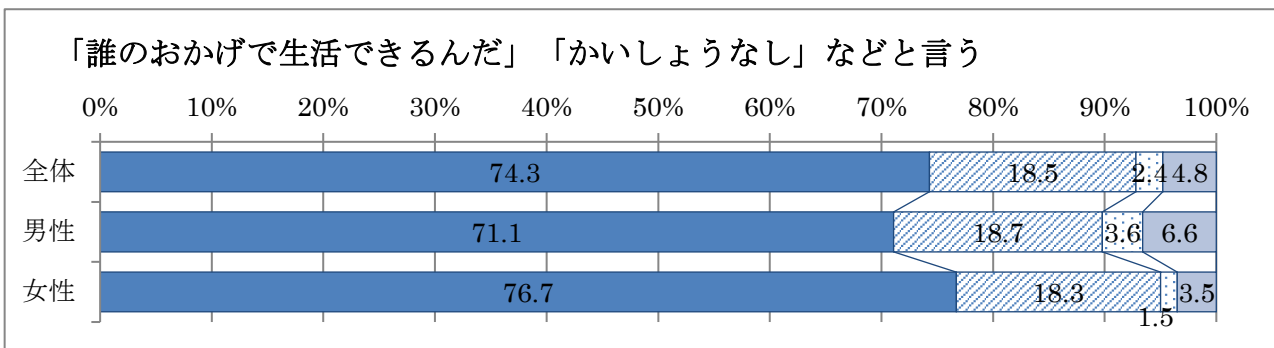
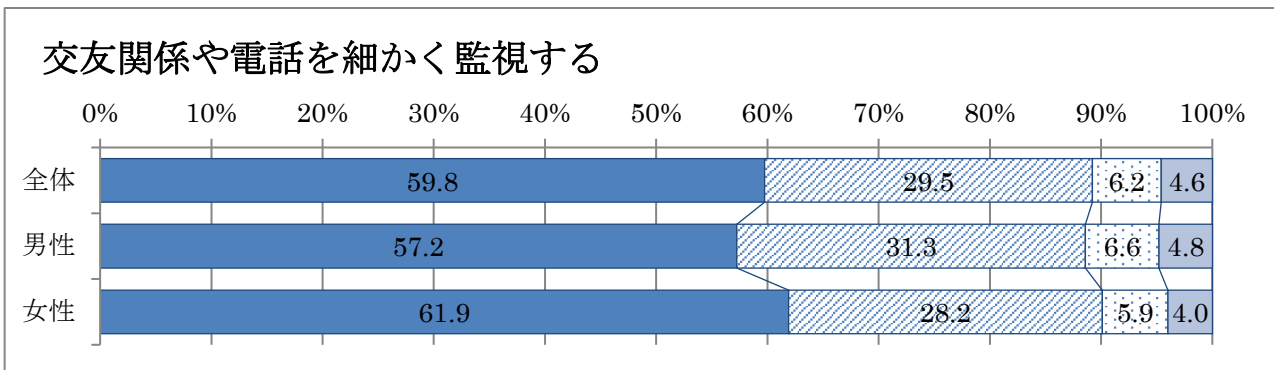
- どんな場合でも暴力にあたると思う
- ▨ 暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う
- 暴力にあたるとは思わない
- 無回答



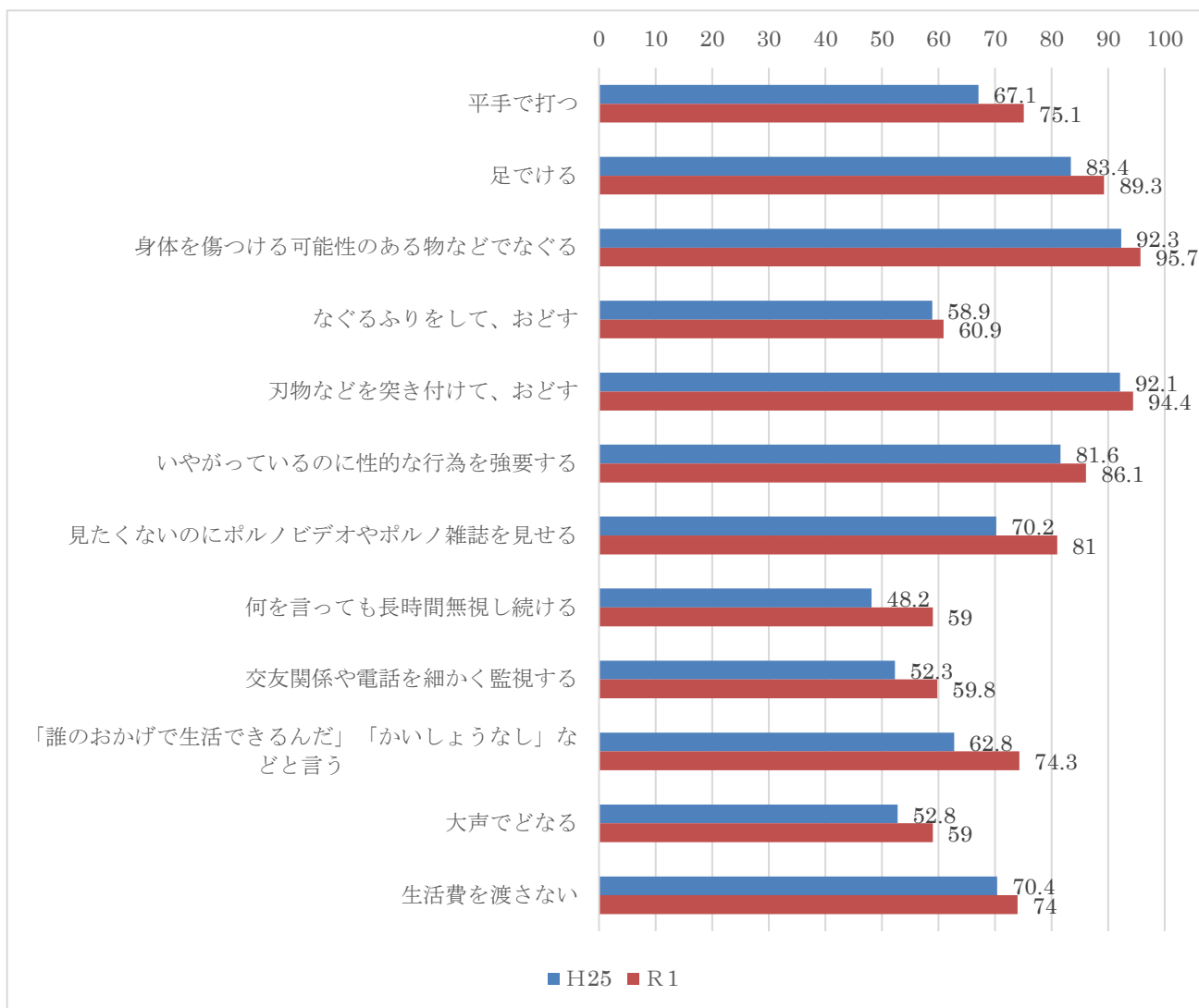
- どんな場合でも暴力にあたると思う
- 暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う
- 暴力にあたるとは思わない
- 無回答



- どんな場合でも暴力にあたると思う
- ▨ 暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う
- ▩ 暴力にあたるとは思わない
- 無回答



◆「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した人の割合(前回調査との比較)



DV 相談窓口の認知度について

問 12 あなたは、DV(ドメスティック・バイオレンス)について相談できる窓口があることを知っていますか。(知っているものすべてに○)

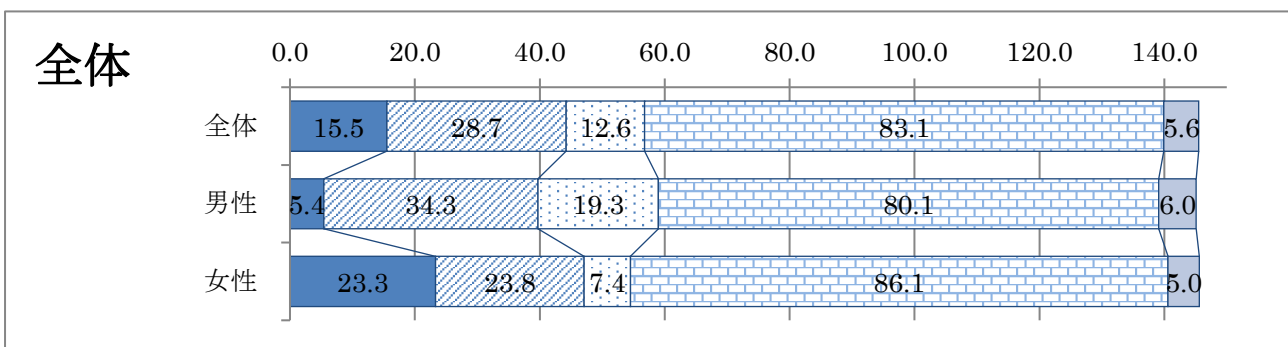
順位	相談先	割合
1	北海道警察相談センター	42.4%
2	知っているものはない	30.3%
3	女性の人権ホットライン	29.0%
4	民間シェルター	24.7%
5	北海道立女性相談援助センター(配偶者暴力相談センター)	20.4%
6	北広島市子育て支援部子ども家庭課	17.4%
7	石狩振興局保健環境部環境生活課道民生活係	2.7%
8	その他	1.1%

その他欄記載事項

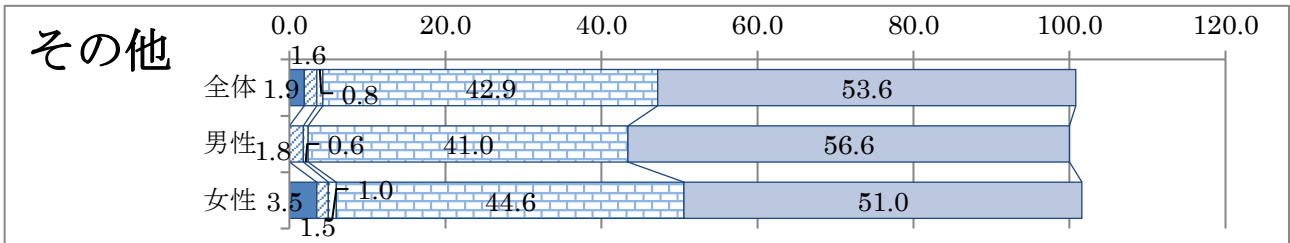
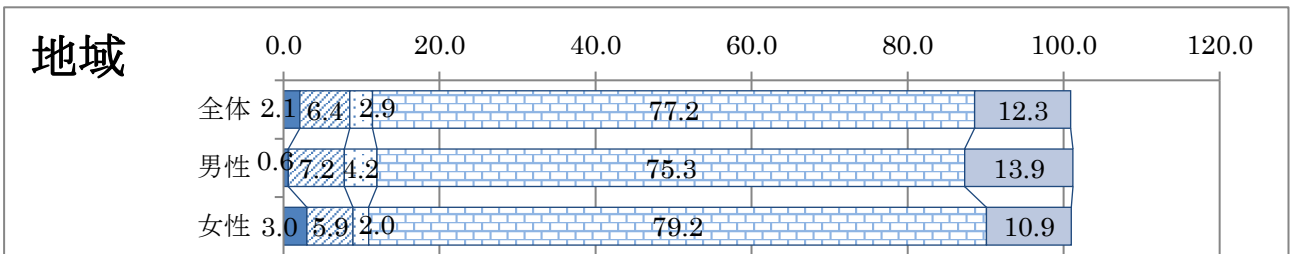
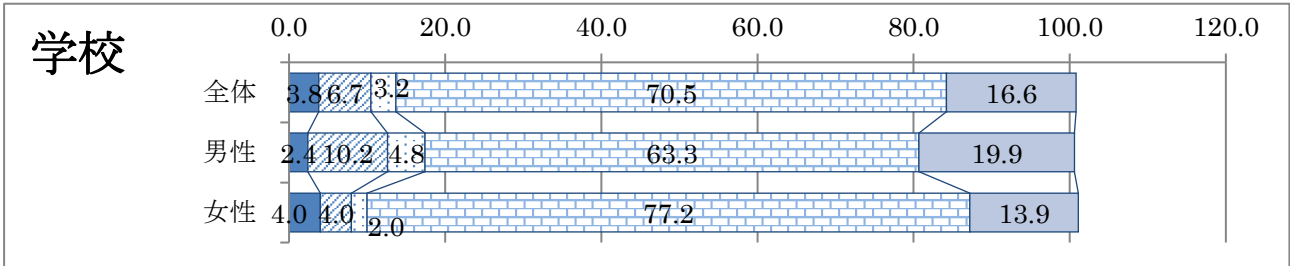
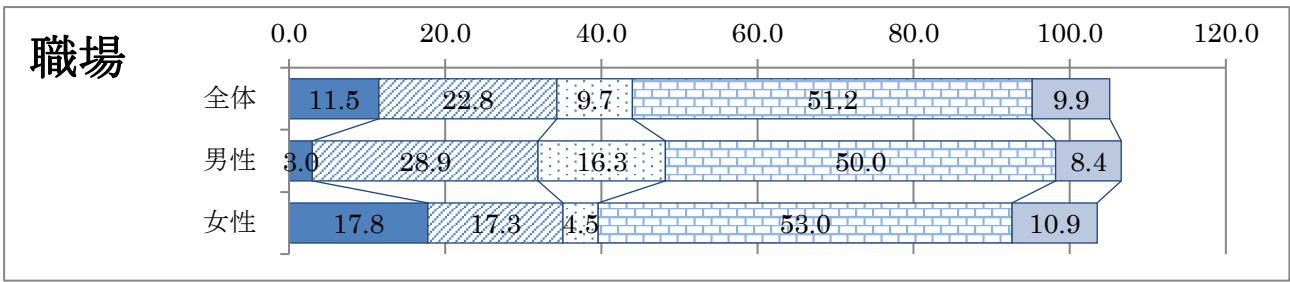
- 相談窓口があることは知っているが、具体的所在は知らない(80代男性)
- なんとなくあるのは知っていたが、具体的にどこに行けばいいのかわからなかった(60代女性)
- 民生委員など(60代女性)
- あることは知っているが、どこにあるかは知らない(40代男性)

セクシュアル・ハラスメントを受けた経験について

問 13 あなたは、これまでに次のような場所でセクシュアル・ハラスメント(セクハラ・性的いやがらせ)を受けたり、身近な人がセクシュアル・ハラスメントを受けているのを見たり聞いたりしたことがありますか。(該当するものすべてに○)

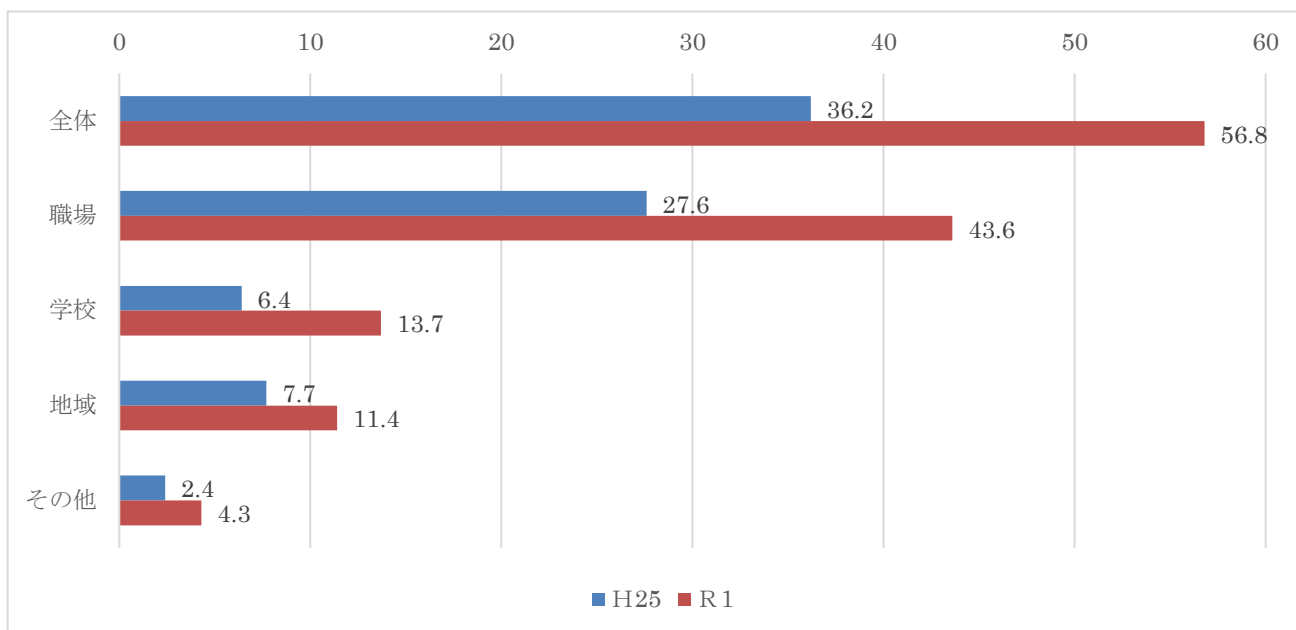


- 自分自身が受けたことがある
- ▨ 身近な女性が受けているのを見たり聞いたりしたことがある
- ▨ 身近な男性が受けているのを見たり聞いたりしたことがある
- ▨ 受けたことはない(見たり聞いたりしたことがない)
- 無回答



- 自分自身が受けたことがある
- ▨ 身近な女性が受けているのを見たり聞いたりしたことがある
- ▨ 身近な男性が受けているのを見たり聞いたりしたことがある
- ▨ 受けたことはない（見たり聞いたりしたことがない）
- 無回答

◆「自分自身が受けたことがある又は身近な人が受けているのを見たり聞いたりしたことがある」と回答した人の割合
(前回調査との比較)



その他欄記載事項

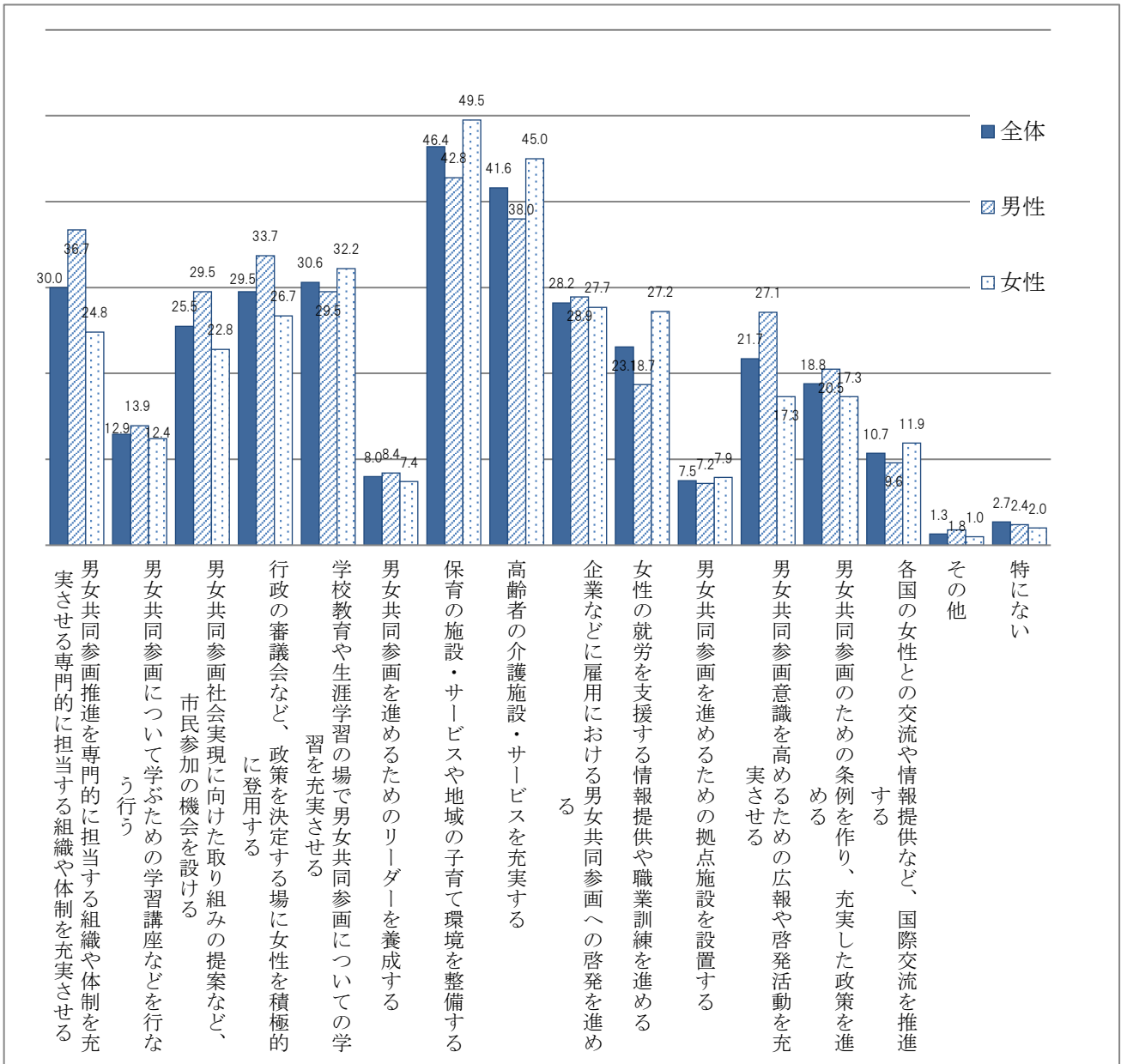
- 元夫から(40代女性)
- 亡き夫の実家(60代女性)
- 地下鉄駅(50代女性)
- 家庭(70代女性、40代女性)
- 宴会(20代女性)
- 友人、交友関係(30代男性)
- 外出先、家庭(父)(60代女性)

行政に求めることについて

北広島市に求めること

問 14 あなたは、男女共同参画社会を実現するために、市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。

(○は5つまで)



その他欄記載事項

- 女性職員の登用を率先して実現すべき。(70代男性)
- まず、男女共同参画社会って何かわからない。(10代女性)
- 働く時間に自由度を増やす仕組みができれば…(男女とも)。(50代女性)
- 企業への指導(70代男性)

男女共同参画のあり方についての意見・提案

問 15 男女共同参画のあり方についてご意見・ご提案などがありましたら、ご自由にお書きください。

男女共同参画のあり方全般について

- 学校で学び、覚えたことは意外と大人になって刷り込まれているので、学習する機会、そういう場所へ見学へ行くなど、個人より集団で経験するのが良いと思います。(30代女性)
- 日本ではまだまだ男女平等が進んでいません。国際的にも下の下の方だと思います。表面的な男女平等でなく、実質的な計画、行動、特に若くして働く女性保護、産休、保育、教育が望まれます。(70代男性)
- えみんぐなど、広報紙を広く配布する(70代女性)
- 男だから女だからとかではなく、人間ひとりひとり個性を尊重し、困っている人がいたら手を差し伸べるとか、大変そうにしている人がいたら手伝うとか、そういう当たり前のことができる世の中になれば、男性のこういうところはいいよね、女性のこういうところずるいよね、という考えは減るのではないかと考えた。ジェンダー、男女平等という考え方は、個性の尊重、モラルの育成によって変化すると思う。なぜなら、そういう考えは不平、不満から出てきた考えであるからだ。そのため、まずは教育現場から個性の尊重、モラルの育成に力を入れることで、社会は前向きに、不平不満の少ないすべての人間が、大体平等な社会になるのではないかと私は考えた。(20代女性)
- 男性優遇の社会から徐々に男女共同参画へと移行しつつあると考えているので、今後さらに、その意識を高める方策を市民全体の課題として促し努力する必要があると考えている。(80代男性)
- 結婚出産に関わらず、男女ともに働きたいときに働けて、休みたいときに休める環境、社会全体、各個人の意識の改善が必要。上記の内容が「当たり前」になる未来になってほしい。(無回答)
- 教育費等、育児に関わる経済的負担を補う。(40代女性)
- 広報の充実を！(70代男性)
- 地域にはたくさん学校があります。その学校の教室を使用して、今よく耳にする学び直しや、部活動等、別に参加できるとより広がりを見せると思うのですが。(50代女性)
- 結婚や出産をしても産休を受けて(大会社や恵まれている人はそれぞれできることが)半年なり一年を育児に専念し、また、復帰できるように皆がなるようなことが理想です。(70代女性)
- 本音を言えば、男は仕事などせず、女に任せて、文化、芸術に専念し、毎日、美味しい酒と音楽で暮らせる世界があれば、そこへ行きたい。(60代男性)
- 男女共同参画の在り方については、中高生から学習させるべきだと思う。(80代男性)
- 子供のころから、家庭、学校、地域等において、大人自身が確立した考えを持って接するようにし、成長する中で、自然に自覚するようになると良いと思います。(70代男性)
- 市としても、力を入れて業務を進めていただきたい。(70代男性)
- 男女ともに、自分のやっている行為のよし悪しの常識の欠如をしていることであるから、そのことの再教育対策に力をいれてみては。(80代男性)
- 元気な人はボランティアをした方がいいと思う。若い夫婦を応援したい。(60代女性)

- 学校教育の段階では、概ね男女平等な環境にあるが、社会人になったとたんに旧態依然になる。この原因は主に「労働環境」にあると考える。一度は労働法規を学習する社会を社会人に提供する必要ありか。同時に高校生、大学生に労働法規の学習機会提供も必須と思われる。(70代男性)
- 戦後は生活苦のため、やむを得ず女も安い給料ながら働きに出てきた人が大半。今は立派な(?)給料でマイカーや豪邸のため贅沢な暮らしのために働くのでしょうか。女性も大した力の素になっていると思います。それと引き換えに子どもを育てる、自分の子供は自分で育てるという意識も少なく、我が家の三人の子も一応皆、税金を払う働きをしていますが、孫も一人で、あとは結婚しない子や、せっかく家庭を持って子供を作らないとのこと(仕事が忙しいため)。ある意味私はいやな時代です。(70代女性)
- 議会や行政メンバーの最低3分の1を女性が得るためのルール作りはどうですか?(60代男性)
- 差別ではなく、男性、女性には、それぞれの能力、体力、精神面等に特性があるので、それを尊重し、生かす職場づくり(配置などを含めて)が必要だ。やたら「男女共同参画」をふりかざすのには反対。適材適所があるのは常識だと思う。(70代男性)
- 各町内会などの会合時に、勉強参加できるチャンスがあればあることを希望します。(70代女性)
- 行政が単に器や言葉だけでなく、具体的な行動をどう起こしていくかが求められていると思う。(よくある「それは私たちの仕事ではない」や「私たちの権限を超えている」ではなく、目の前の問題をどう捉え、解決のためのアクションを起こすかということ)(40代男性)
- そもそも男だから女だからと言ってるうちは、何をしても変わらないと思う。人としてどうあるべきか男も女もない。(40代女性)
- 他国から見ると、文化国に見えるが、まだまだ遅れていると思う。(70代男性)
- 女性が働きやすい社会に少しずつ変わってきていると思いますが、まだまだだと思います。子供を育てていても、そうでなくても、特に結婚した女性は、働きにくさを感じています。家庭での男性の役割がまだまだなのです。近頃はイクメンなどと言われますが、そのような男性はほんの少しです。昔からの、男は外で、女は家庭で家事、育児という環境で育ってきたのですから、なかなかそれを変えるのは難しいです。今の子供たち、これからの世代には男も家事、育児をするのが当たり前の世の中になるように教える必要があるのか・・・と思います。家庭でも男の子に家事をさせたり、学校でも授業に取り入れていく必要があると思います。(40代女性)
- 「男女共同参画課」を設けて、すべてこの課1本で対処できる人材を配置する(80代男性)
- 私はこのアンケートが届くまで、市で男女共同参画に積極的に取り組んでいることを全く知りませんでした。なので、もしこのようなことに関するセミナーなどが今後行われるとしたら、ぜひ参加してみたいので、もう少し目のつく形でPRしてもらえたら助かります。日本は今、高齢者社会なので、そうした施設での男女の平等も実現してもらえたらいいな、と考えています(30代女性)
- 出産後に元の職場に戻る、また再就職しやすい優遇措置がないと、働ける女性がたくさんいるのに、その力を社会に貢献することができず、大変もったいないです。例えば、入社1年以上でないとか育休が取れないので、退職せざるを得ない。産後、就職先を探すのに、乳飲み子を抱えながら就活と保活。想像を絶する心労が重なります。女性はこんな苦労をこれからも続けるのでしょうか。(40代女性)
- 後期高齢者(女)ですが、実際私の今までの人生の体験では、「介護施設、サービスの充実」が男女共同参画社会の実現に必須条件だと思います。「在宅介護」に重きを置きつつある現在の介護

制度では、私の世代の観点では、やはり女性が介護をして老親を自宅で看取るべきとなります。遅かれ早かれ、介護される側になるのですが・・・「自宅介護」という言葉は、美しい言葉かもしれませんが、実際は非常に厳しいものです。(70代女性)

- なんでもかんでも平等というのではなく、男女の役割分担があると思います。夫婦の中でよく話し合うことが重要だと思います。多少のことは男が我慢することも必要だと思いますが、一番大事なのは互いの思いやりであると考えます。仕事も家庭も同じだと思います(60代男性)
- アンケートの希望のとおりです。(40代男性)
- 老人への介護ばかりでなく、これからの子供たちや若い働く人、家族のための優遇がたくさんなければ、男女共同参画推進の意味はないと思う。子育てするにも若い子育て家族への安心子育てとは・・・保育園があればよいだけじゃないこと！交通費の優遇など、子どもや家庭を本当に考えるには安心できる生活のみ。(60代女性)
- 計画倒れにならないことを望む！(70代男性)
- 人間性(心)のある人、知識があり、(旧)役職にとらわれず、皆と話をできる人が大事。(70代女性)
- 様々な家庭環境や個人の状況があると思うので、細かいところまで考えてプランを作り、社会の実現を目指してほしいです。
- 男性優位になってきた振り子が反動で女性優位になっていると近年感じることが多い。(良くも悪くも)(20代男性)
- アンケートに挙げられていることを、ぜひ実現させてください。(60代女性)
- 男尊女卑風潮の是正。社会的地位登用の指導(80代男性)
- 日本は欧米と比べて男女共同参画が遅れています。しかし、日本の地理的位置や民族性、歴史、人口等、特殊性を考慮すると、単純に欧米諸国の真似をしてもうまくいかないと思います。日本の伝統、良さを生かした上での方法を考えたいものです。韓国をはじめ、これからさらに男女共同参画が進む国々のロールモデルになれるはずです。(30代男性)
- 保育園1歳時、1-6歳時に入園希望しましたが、空きがなく入園できず、2歳にまた申込みしますが、空いていない可能性があるので仕事を持つ女性にとって保育園が少ないと思い、保育園児の人数増大など希望します。(祖母より)(60代女性)
- 女性の意識を持たせること。わかろうとすることが大事で、そこまでの過程が大事だと思う。(80代女性)
- 古くからの慣習もあり、男性、女性がお互いに尊敬しあい、認め合うという根っこの部分で日本はまだ遅れているように思います。地方創生、女性活躍、働き方改革などの掛け声はいいのですが、現状はまだまだ・・・というのが実感です。若い人たちが安心して暮らしていけるように、政治、行政に期待しています。(60代女性)
- 現在の若い男性、女性の現状を聞いて、どこに問題があるか把握することが必要ではないでしょうか。(70代女性)
- 男尊女卑の時代を見てきたし、体験してきた自分としては、ゆっくりでもよいから、意識の改革に期待したい。(70代女性)

- 家事、育児に関する意識を男性も持つべき。その意識を持つ人は、最初から持って参加しているが、意識を持っていない人に対しては義務で教育を受けさせるべきだと思う。年配者も「男は仕事、女は家事、育児」という今の時代にそぐわない意識の人達もいるので、同様に教育を受けさせるべき。共働きで女の方が仕事が簡単だろうというのもDVに当たると思う。(30代女性)
- イベントなどを企画して実行することで、男女共同参画への意識付けができると思います。(20代男性)
- ①基本は8時間働いたら生活できるようにし、②女性が尊重され、結婚でき、出産、育児を十分に支える社会にすることが大切です。そのための教育は大切です。③行政の方は、粘り強く取り組んでください。(70代男性)
- お互いを思いやる気持ちをもって生活していくことが一番大事かと思います。男だから、女だから、と意識しすぎるのもおかしいかなとも考えています(70代女性)
- 男女共同参画の実現を目指すことは重要なことだと思います。しかしながら、目先の成果を欲して、一方を優遇したり、例えば女性だからという理由で採用することはかえって軋轢を生むことになると思います。「男性の育休取得率0%」や「女性の正規雇用率0%」といったものは、あくまで手段であり、本来の目的は社会における性差の意識をなくすこと、市民をひっぱっていく行政の方が、成果を焦ってしまい、手段が目的となってしまう、本来の目的を見失わないように、舵取りをお願いします。今の子供たちが大人になったときに、私たちの世代が経験した苦勞を感じず、性別による差を感じず、「男女平等のために」という活動が必要ないと思えるような社会づくりを目指して、これからも頑張っていきましょう。(30代男性)
- 小さい子どもがいますが、共働きだと、保育所のお迎え等はいつも母の役目。夫ももっと「早退したい」「休みたい」と言いやすい環境だと、子育てと一緒に参加してもらえて良いのにとします。いつも仕事を早く終わらせようと考えながら仕事をしているのは、私の方な気がします。(30代女性)
- 現状は国による法律の施行に引っ張られる形で、市民レベルの意識や社会生活、環境が少しずつ変化していると思います。どこが問題なのかは概ね把握されているので、優先度を加味しながらいかに取り組むか、知恵を出せば進捗度は高まると考えます。北広島市においても、女性の社会参画を推進するため、女性管理職の比率を高めることや、女性市議を増やす努力が必要だと思います。現状の社会構造で、主要な部分での女性の絶対数を増やすことは効果的であり、本来あるべき姿であると考えます。(60代男性)
- 共同参画といっても、男女それぞれの特性が違うので、「平等」の考え方、在り方の問題を理解したうえで、協力すべき。育児について・・・0歳から施設に預けるのは賛成できない。手がかかる不安な幼児期こそ、親が責任をもって育てるべき。もちろん施設の充実も大切だが、お金を払って、他に任せないでと言いたい。(80代女性)
- 個人が意識を高めないと、他の団体等が何をしても、税金の無駄でしょう。(40代男性)
- 幼少期の頃から、男の人も女の人も関係なく、家事、育児、介護をするということを教えておく方がいい。(40代女性)

市への要望について

- 子供の事故をなくしてほしい。(死なせないでほしい。)(60代女性)

- 参加する時の交通の悪さがあるので考えてほしい。皆が車で参加しに行くわけではないのでよろしく！（70代女性）
- 男女共同参画よりもまず先に目を向けなければならないことがあるのでは？国や市が考え、まとめるより先に優先すべきことは、必然的に見えていないのでしょうか。いう事は恰好いいが、やることすべての外れなのは、今までもこれからも変わらずだと思います。（20代男性）

アンケートの内容について

- 全然関係ないけど、字が多くて難しい漢字が多すぎてわからない。年代別アンケートの内容を変えた方がよいと思う。結婚していないし育児のことわかんないし。（10代女性）
- アンケートの説文、文章表記について。なぜ、他国語（造語？）優先なのか？例：セクシャル・ハラスメント（セクハラ？性的いやがらせ）他国語→日本語に訳。このように表記、表現しなければならない法的根拠は？（80代男性）

その他

- 市民意識調査に参加できてよかったです。担当職員様、よりよい社会の実現に尽力してください。（60代女性）
- そもそもこの回答が出来るほど、社会経験を通じていないので、あまり参考になる回答ができませんでした。（10代男性）
- 男女共同参画がどういうものか初耳、よくわからない。（60代男性）
- 高齢のため、難しい事はわからない。（80代女性）
- 私は94歳の母を11年間ほぼ一人で介護しています。（各介護サービスを利用しています。）デイサービス等は利用していません（本人の希望）。毎日、一对一の生活でもめ事が起こると、頭にふと暴力の文字が浮か、はっとする時もあります。何かと自分の悩みや苦勞を分かち合える時間がほしいと思っていますが、半分寝たきり起きたりの母を置いて外出もできず、気持ちも不安定な時もあり、このアンケートを書きながら反省しています。ありがとうございました。（60代女性）

北広島市男女共同参画に関する市民意識調査結果報告書
令和元年度

発行年月 令和元年9月

発行 北広島市市民環境部市民参加・住宅施策課男女共同参画担当
〒061-1192 北広島市中央4丁目2番地1
TEL(011)372-3311(内線4122)
FAX(011)372-6188